

2021年度
日本女子大学
社会連携教育センター
活動報告書



2021年度社会連携教育センター活動報告書 目次

○2021年度の活動を振り返って 社会連携教育センター所長 横井 孝志	1
-------------------------------------	---

○正課外学修の推進

▼正課外学修・イベントについて（理学部化学生命科学科教授 今城 尚志）	3
▽2021年度社会連携教育センター 正課外学修・イベント一覧（社会連携室）	4
▽正課外学修・イベントアンケート（社会連携室）	6
▼社会連携活動支援助成（家政学部住居学科教授 薬袋 奈美子）	40
▽2021年度社会連携活動支援助成 スケジュール・テーマ一覧（社会連携室）	41
▽社会連携活動支援活動報告書（社会連携室）	42
▼JWUチームボランティアについて（社会連携室）	50

○地域連携報告

▼心理相談室について（人間社会学部心理学科准教授 堀江 桂吾）	51
▼文京区妊産婦・乳児救護所について（家政学部住居学科教授 平田 京子）	52
▼文京区健康・体力増進事業について （家政学部児童学科准教授 澤田 美砂子／准教授 杉山 哲司）	54
▽2021年度文京区連携について（社会連携室）	55
▼令和3年度大学・地域連携事業「生田でインバウンド～生田緑地の魅力発信」の取り組み （家政学部住居学科教授 薬袋 奈美子）	56
▼川崎市多摩区3大学連携事業について（人間社会学部文化学科教授 中西 裕二）	57
▽2021年度川崎市多摩区との連携について（社会連携室）	58
▼板橋区立中央図書館との連携事業「親子読み聞かせ講座」 （家政学部児童学科教授 和田 直人）	60
▼北海道日高管内7町・日高振興局・日高町村会との包括連携について（社会連携室）	61
▽学校法人日本女子大学と北海道日高管内7町との協定締結式 式次第	62
▽学校法人日本女子大学と北海道日高管内7町との協定締結式 参加者名簿	63
▽JWU社会連携科目での北海道日高管内7町・日高振興局・日高町村会との連携 （人間社会学部文化学科教授 中西 裕二）	64
▽北海道浦河町特産品夏いちごを用いた地域連携の取り組み （家政学部食物学科教授 藤井 恵子）	65

○産官学連携報告

▼AI・データサイエンス、ICTに関する社会連携活動

(理学部数物情報科学科教授 長谷川 治久) …………… 67

▼日本総合住生活株式会社との産学連携について

(家政学部住居学科教授 定行 まり子／学術研究員 古賀 繭子) …………… 68

▼2021年度株式会社読売広告社との連携 (人間社会学部文化学科教授 中西 裕二) …… 70

○JWU子育てサイエンス・ラボ／子育てサイエンス・カフェ

▼「JWU子育てサイエンス・ラボ」活動報告

(人間社会学部心理学科准教授 麦谷 綾子) …………… 71

▽子育てサイエンス・カフェ アンケート (社会連携室) …………… 72

○SDGs特設サイト

▼2021年度SDGs特設サイトについて (社会連携室) …………… 91

2021年度の活動を振り返って

社会連携教育センター所長 横井孝志
(家政学部被服学科 教授)

社会連携教育センター報告書第2号をお届けします。

2020年4月に社会連携教育センターが発足してから2年が経過しました。この間、様々な方々にセンターの活動をご支援頂いたことに対して、心より御礼申し上げます。

すでにご承知のように、本学の社会連携教育センターは、日本女子大学と地域社会とを繋いで、本学の研究・教育資源を活用した地域社会における課題の解決や、地域社会における実践的現場を活用した社会連携教育の実現を支援する組織です。発足2年目のセンターでは、本格的に様々な社会連携活動を実施しました。これらの中には社会連携活動支援助成事業などの正課外学修活動、文京区、川崎市、板橋区、北海道日高管内との地域連携活動、日本総合住生活株式会社や株式会社読売広告社との産官学連携活動、本学の研究と地域の子育てとを繋ぐJWU子育てサイエンス・ラボの活動、本学のSDGs活動を紹介するSDGs特設サイトの設置などが含まれます。

一連の活動の中には、前例のない初めての試みが多くあったため、社会連携教育センターの構成員、プロジェクトメンバー、事務局とも手探りで活動を進めながら、学び経験する1年でした。しかし、学生の皆さんを含む多くの方々のご支援ご協力により、無事に活動を推進し、よい成果を上げることができました。本報告書にはこれらの成果をまとめました。

是非ご一読頂き、皆様方の今後の社会連携の参考にして頂けると大変ありがたく思います。

正課外学修の推進

正課外学修・イベントについて

理学部化学生命科学科教授 今 城 尚 志

JWUラーニング・コモンズかえでができた初年度ということで、学内と学外の認知度向上のため積極的にイベントを実施した。4月にオープニングイベントとして「学内でできるボランティアって??」を2回開催し多くの学生の参加があった。このイベントでJWUラーニング・コモンズかえでの認知が広がったといえる。

また、このイベントが契機となり、学内の学生ボランティアチーム（妊産婦・乳幼児離所）が発足した。ダイバーシティ推進室と共同開催した「ノートテイカー養成講座」を3回実施し、多くの参加があったことから学生が学内ボランティアに関心があることが示された。10月に実施した「妊産婦・乳児を守る避難所をつくりたい」では遠隔ではあるが、地域の方々との交流が生まれた。11月には文京区社会福祉協議会との共催で文京区のボランティア・地域活動の紹介を行い、このイベントが学内だけでなく学外・地域への拡がりの端緒となった。12月には社会福祉学科教員からの提案による地域との交流イベントを実施した。もうひとつの対外的な広がりとして一般企業との連携によるイベントの実施が挙げられる。SDGsを題材としてJALおよび第一生命によるイベントを1月と2月にそれぞれ実施した。

初年度は多くのイベントを実施したが、次年度以降はかえでを使った学内の自主的活動を制限しないように、イベント企画を立案していくことが必要となるだろう。

2021年度社会連携教育センター 正課外学修・イベント一覧

社会連携室

●2021年4月23日・4月27日開催【在学生・学内関係者対象】（対面での開催）

「学内でできるボランティアって??」

講師：家政学部住居学科教授 平田京子

参加人数：45名（4/23）、36名（4/27）

●2021年5月20日・6月17日開催【在学生・学内関係者対象】（遠隔での開催）

＜ダイバーシティ推進室×社会連携教育センター共同開催＞ノートテイク養成講座

講師：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

参加人数：40名

●2021年6月11日・6月15日開催【在学生・学内関係者対象】（対面/遠隔の両開催）

＜学内でできるボランティア＞妊産婦・乳児救護所の運営を考える・ボランティアキックオフミーティング

講師：家政学部住居学科教授 平田京子

参加人数：対面12名、遠隔26名 計38名（6/11）

参加人数：対面8名、遠隔17名 計25名（6/15）

●2021年7月15日開催【在学生・学内関係者対象】（遠隔での開催）

「ボランティア入門講座」

講師：日本ボランティアコーディネーター協会

参加人数：22名

●2021年10月7日開催【在学生・学内関係者対象】（遠隔での開催）

＜ダイバーシティ推進室×社会連携教育センター共同開催＞ノートテイク養成講座

講師：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

参加人数：24名

●2021年10月30日開催（遠隔での開催）

＜みんなの避難所教室＞妊産婦・乳児を守る避難所をつくりたい

～赤ちゃんとお母さんを守る「妊産婦・乳児救護所」を知っていますか？～

講師：家政学部住居学科教授 平田京子

参加人数：30名

●2021年11月11日開催【在学生・学内関係者対象】（対面での開催）

＜文京区社会福祉協議会連携イベント＞「きっかけはなんだってOK～文京区のボランティア・地域活動紹介～」

講師：文京区社会福祉協議会/文京区地域連携ステーション フミコム

参加人数：16名

●2021年12月18日開催（対面での開催）

「子どもたちからのメリークリスマスプロジェクト～思いをかたちに」

講師：人間社会学部社会福祉学科准教授 黒岩亮子

参加人数：親子7組（保護者8名、子ども13名）、学生（応募者）4名

●2022年1月20日開催【在学生・学内関係者対象】（遠隔での開催）

＜日本女子大学社会連携教育センター×日本航空株式会社（JAL）連携イベント＞

「JAL社員と考えるSDGs」

講師：日本航空株式会社産学連携部

参加人数：42名

●2022年2月25日開催【在学生・学内関係者対象】（遠隔での開催）

＜日本女子大学社会連携教育センター×第一生命保険株式会社連携イベント＞

「投資でコロナ対策！？～第一生命のSDGs推進取組み～」

講師：第一生命保険株式会社 総合営業職推進部

参加人数：17名

●2022年3月2日開催（遠隔での開催）

「文京避難所大学2021/文京区防災士・防災リーダー全体会（文京区防災課）」

講師：家政学部住居学科教授 平田京子/名誉教授 石川孝重/文京区防災課

参加人数：27名（Zoom参加者のみの人数）

●2022年3月12日開催（遠隔での開催）

＜みんなの避難所教室＞ 2021年度開設キット完成記念

～赤ちゃんとお母さんを守る「妊産婦・乳児救護所」ってどんなところ？

大学・学生とともに準備していこう～

講師：家政学部住居学科教授 平田京子/名誉教授 石川孝重

参加人数：29名

正課外学修・イベントアンケート

社会連携室

【アンケート報告】2021年4月23日 <学内でできるボランティアって??①>

イベント名：学内でできるボランティアって??①

日時：2021年4月23日（金）12：40～13：10

場所：百二十年館12001教室

参加人数：45名

アンケート：32件（回収率71%）

<Q1>

●本日（4/23）イベントについて、どのくらい満足していますか

大変満足	15
満足	15
普通	2
少し不満	0
不満	0

<Q2>

●今回のイベントに対してご意見・ご要望・ご感想がございましたら、ご自由にお書きください。

（任意）

- ・とてもよかったです！
- ・とてもわかりやすかったです。
- ・ボランティアやってみたくて思いました。
- ・ボランティアをずっとやってみたくて思っていたので、ぜひ一緒にやらせて頂きたいです。
- ・"自分にもできることがあるんじゃないかと思えたので、よかった。
- ・また、同じ年くらいの学生や様々な人がボランティアに参加していると知って、やってみたくて思った。
- ・高校生の頃からボランティアに興味があったので、学内でできるボランティアを知れて良かったです。
- ・学内でも地域の人の役に立つことができるのだなと思えました。ぜひ参加したいです。
- ・災害支援にとっても興味があったので、参加しましたがもっと興味が湧きました。
- ・"学内でできる災害ボランティアに参加したいと思えました。
- ・大学生になると自ら動かないと新たに経験を積んだら大切なものを得ることが出来ないと思い本日は思い切って参加させていただきました。このように学校が主体となってボランティア活動を推進して下さると本当に学生としてありがたいと感じました。ノートテイクについても災害時に備えてのボランティア活動も大変関心があります。今後も楽しみです。本当にありがとうございました。
- ・学校が地域とどのような連携をしているのか少し具体的に知ることができ、面白かった。
- ・感染がまた再拡大している状況なので、学内での対面の開催ではなく、ホームページの掲載やzoomなどを用いたオンラインでの開催の方が有難かったですし、安心だと思えました。
- ・先生方の温かい気持ちが伝わってきてとても嬉しくなりました。ボランティアしたい気持ちが増えました。

※原文ママ

<Q3>

●何をご覧になってこのイベントを知りましたか？

ホームページ	7
Twitter	4
学内の掲示等	16
その他	7

<Q4>

●Q3で「その他」を回答された方、具体的に教えてください。(任意)

- ・JASMINE-Naviからのメール (7件)

<Q5>

●今後どのようなイベントがあると参加したいですか？(任意)

- ・SDGs
- ・実際のボランティアの紹介
- ・教育支援関係のボランティア説明
- ・SDGsに関連したイベント
- ・時間が合えば参加したいです。
- ・ゴミ回収などの地域にかかわるボランティア
- ・音楽ボランティアイベント
- ・ボランティアしたいと考えている人同士の交流会
- ・海外に関すること、海外の人との交流
- ・救護や地域の介護施設や保育園などのお手伝いなど、なんでも参加してみたいです。
- ・実際のボランティア活動への参加説明会や学外での災害ボランティア活動のお知らせ、災害時に役立つ応急処置の講義・外部での訓練実施のお知らせなど
- ・災害ボランティアについてのイベント
- ・社会連携のイベントに企画段階から携われるイベントがあったら積極的に参加したい
- ・積極的に参加したいが、特になし。

※原文ママ

【アンケート報告】2021年4月27日 <学内でできるボランティアって??②>

イベント名：学内でできるボランティアって??②

日時：2021年4月27日（火）12：40～13：10

場所：JWUラーニング・コモンズかえで／Zoom（ハイブリッド）

参加人数：対面18名、遠隔18名

アンケート：18件（回収率：50%）

<Q1>

●本日（4/27）イベントについて、どのくらい満足していますか

大変満足	11
満足	7
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q2>

●今回のイベントに対してご意見・ご要望・ご感想がございましたら、ご自由にお書きください。
（任意）

- ・このようなボランティアには小学生の頃から興味があったためとてもやってみたいと思いました。
- ・参加してみたいと思う。私は家が学校から遠いので、それも考慮した時間帯でやってくれると嬉しいと思う。
- ・過去の地震や災害時のボランティアについて知ることができて良かった
- ・学校が今金曜日しか行くことがなく、直接の参加が難しいですが力になりたいと思いました。教育学科なのですが、参加できたら嬉しいです。
- ・災害時のボランティアにはまだ課題が溢れていること知り、これからの活動を通して少しでも役に立ちたいと思った。実際に災害が起きたときも周りの人々を引っ張れるような人間になれるよう努力しようと思った。
- ・本来は対面で説明会に参加する予定でしたが、入校許可のメールに不具合があったため遠隔で参加しました。30分という短い時間でしたが、今回のイベントに参加してとても良かったと思いました。ボランティア活動や防災に関して昔からとても興味があり自分も何か行動したいと思っていましたが、今まで参加する機会がなかったため、今日このような形で説明会に参加できて嬉しかったです。また、妊産婦の方の避難所と指定されていることなど、この説明会に参加するまで全く知らなかったもので、これから更に知っていきたいと思いました。
- ・訓練作戦会議に参加してもし地震が起きた時に自分も、周りの人も困らないように準備するお手伝いをしたいです。
- ・文京区から災害時の避難場所として指定されている割に全然準備が整っていないと知り、愕然とした。是非協力したい。

※原文ママ

<Q3>

●何をご覧になってこのイベントを知りましたか？

ホームページ	1
Twitter	0
学内の掲示等	13
その他	4

<Q4>

●Q3で「その他」を回答された方、具体的に教えてください。(任意)

- ・JASMINE-Naviからのメール (4件)

<Q5>

●今後どのようなイベントがあると参加したいですか？(任意)

- ・音楽ボランティア
- ・学内、学外でできるボランティアの紹介
- ・学内でできるバイト
- ・夏休みのイベントなどであれば直接参加することができるので収集してほしいです。
- ・仕事と育児の両立について、実際にOGから話を聞きたい。
- ・「かえで」は地域社会との連携の場とされているので、大学周辺の地域(文京区・豊島区...)の問題について現状を知り、話し合えるような機会があるイベントに参加してみたいです。
- ・海外の人との交流
- ・備蓄の管理などのボランティア

※原文ママ

<Q6>

●文京区災害時妊産婦・乳幼児救護所ボランティアについて ~社会連携教育センターでは、今後文京区災害時妊産婦・乳幼児救護所ボランティアに関する学生さんのボランティアを組織していきたい、と考えています。興味のある方は、以下にチェックをお願いいたします。ボランティアに関する情報などをお届けします。~後どのようなイベントがあると参加したいですか？(任意)

- ・全員興味あり(18名)

<Q7>

●Q5で「興味がある」と回答いただいた方へ。お手数ですが、学科を選択してください。

児童学科	0	現代社会学科	4
食物学科(食物学専攻)	0	社会福祉学科	1
食物学科(管理栄養士専攻)	1	教育学科	3
住居学科(居住環境デザイン専攻)	0	心理学科	0
住居学科(建築デザイン専攻)	0	文化学科	1
被服学科	0	数物科学科	1
家政経済学科	1	物質生物科学科	3
日本文学科	3		
英文学科	0		
史学科	0		

【アンケート報告】2021年5月20日 <ノートテイカー養成講座>

イベント名：<ダイバーシティ推進室×社会連携教育センター共同開催>ノートテイカー養成講座

日時：2021年5月20日（木）13：30～16：30

場所：JWUラーニング・コモンズかえで／Zoom（ハイブリッド）

参加人数：対面18名、遠隔22名 計：40名（この他教育学科榎本先生）

アンケート：37件（回収率：92%）

<Q1>

- 本日（5/20）イベントについて、どのくらい満足していますか

大変満足	24
満足	12
普通	1
少し不満	0
不満	0

<Q2>

- 今回のイベントに対してご意見・ご要望・ご感想がございましたら、ご自由にお書きください。

（任意）

- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・新しいツールを知れて、活用しようと思った。ノートテイクの連携について、学べて、活用しようと思った。
- ・木村さんのお話も生で聞くことが出来て、嬉しかったです。これからも支援を必要としている方の力になりたいです。積極的にこのようなイベントを開いて欲しいし、参加したいです。
- ・とても良い経験ができました。ありがとうございました！
- ・聴覚障害のことからノートテイクのことまで色々なことを知ることが出来て大変興味深かったです。また、実践することが出来て、難しさや大変さを実感しました。ありがとうございました。
- ・普段当たり前を受けている授業ですが、障害のある方にとっては困難がいくつもあるということがわかりました。聞こえ方は人それぞれなのでその方の聞こえ状況について、理解することが大切だと思います。実践的なノートテイクの技術を学べて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・タイピングをもっと速くできるようにしたいと思いました。
- ・今後もPCテイクのボランティアには、ぜひ積極的に参加していきたいです。
- ・ジャスミンナビの掲示で初めてノートテイカーという存在をしり、興味を持ち本日参加させて頂きました。わたしのチームには木村さんがおり、実際に見やすい文の打ち方などを聞くことができ、とても充実した講座になりました。
- ・初めてWordを利用してノートテイクを行ったときに比べて今回のサイトがとても使いやすく、また支援を受ける側も見やすいと感じました。また複数人で同時にフォローし合って行うことでより精度が高くタイムラグが短くなると思いました
- ・ノートテイク(練習ですが)は初めてで緊張しましたが、楽しく行うことができました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・教員志望です。教員になったときに必要な知識を得られるかと思い、参加させていただきました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・他大学にノートテイクを行なっている大学があると知り、以前から気になっていたところ、今回

の講座を発見し参加させていただきました。実際にノートテイクを体験してみると、想像していたよりも大変で集中力や技術のいることであると感じました。現在大学4年生のため、活動できる期間は短いかもしれませんが、今後実際にボランティアチームが発足された際には、是非参加させていただきたいと思いました。

- ・思っていたのと、実際やってみるのは異なり、手を動かして打つてみることで良かったと思います。パソコンを通じて2人が協力することで、文章の正確性が高まり、達成感がありました。
- ・とても勉強になりました。今回の講座で基本的なことは分かりましたが、実際にボランティアとして動くこととなったらもう少し実践的な講座もやっていただけると嬉しいです。ご検討よろしくをお願いいたします。
- ・私は、小学生の頃から仲良くしている友達が聴覚障害を持っているので、このイベントが気になりました。彼女は多少の手話もすることは出来るのですが、普段は人の口の動きを見て、コミュニケーションをはかっています。しかし、コロナが流行してから、マスクのせいで話しての口が見えることが出来ないため、話を理解することに苦戦していました。ノートテイクを学ぶことで、今後、関わる際に何か手助けになればいいなと思い、今回のイベントに参加しましたが、とても勉強になる講義で楽しかったです。
- ・実際にノートテイクを体験できて大変さを実感できてよかったです。
- ・ノートテイクについて漫画で読んでからずっと気になっていたもので、今回触れられてとても嬉しかったです。タイピングは早い方なので、私でも役に立てるのかなと思ったら嬉しかったです。
- ・情報を言葉にして伝えるという大切なお仕事を実際に体験で学ばせていただけてありがとうございました。4年生なのでボランティアとして全面的にバックアップさせていただくことは難しいのですが、日本女子大学が障害を持つ方が出来るだけ同じ立場で学びができる環境となることを応援しています。本日は参加させていただきありがとうございました。
- ・話している速度についてだけでなく、ペアとの連携も必要であるため、すごく大変でした。これからタイピングの練習をしていきたいと思います。イベントを開催していただき、ありがとうございました。
- ・今までノートテイクという活動や、実際に聴覚障害の学生がいることを知らなかった。彼女たちが普段どのような環境の中で授業や生活をしているのかが分かったし、自分にもできることがあるんだと感じることが出来た。実際にタイピングをすることは難しかったが、練習して誰かのために役立てたいと思う。このような機会がなかったら、今後も知ることがなかったと思うので参加してよかった。このような機会を作ってくださいありがとうございました。
- ・ノートテイクはある漫画作品をきっかけに知りました。高校からの同級生に難聴の友達がいま。授業や友達との会話で苦労しているのを間近で見えてきて、「何か私にできることはないのか」と考えていたことも参加を決めた理由の一つです。本日の講義では、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。今後ぜひ、ノートテイクとしての活動に関わりたいと考えています。
- ・質問なのですが、私今まで授業などでteamsを使ったことがなく、情報や資料保管のみならいいのですが、teamsは重くなると聞いているので、ご検討いただけたら活動はzoomでこれからもやっていただけたらうれしいです。
- ・この講義について知る前はノートテイクという言葉さえも聞いたことがない状態でした。ですが、今回講義を受けてノートテイクの基礎内容や、ノートテイクの必要性、基礎技術などについて知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。本日は誠にありがとうございました。

- ・初めてこのような活動に参加させていただいたとともに、聴覚にハンデをもっている方がどのような心配事があるのかを初めて知る機会となりました。今まで自分軸で生きてきましたが、「誰かのために」なるような事をしていきたいと思いました。
- ・一人の不具合にかかった時間が長すぎた。トラブル対応の方は講師の方と別にしてほしい。遠隔でもセミナーを受けられるのはありがたい。

※原文ママ

<Q3>

- 何をご覧になってこのイベントを知りましたか？

JASMINE-Navi	32
4月開催の社会連携教育センターイベント	6
その他	2

その他…JASMINE-Naviからのメール（2件）

<Q4>

- 社会連携教育センターでは聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームを作ります。このチームに参加していただけますか？

参加したい	30
参加しない	7

<Q5>

- 今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、大学としてまとめ、講師にお伝えします。（任意）
- ・T-tacを使う際にパソコンで、とありましたが、GoogleChromeからのアクセスあればiPadでも可能でしょうか？（ちなみにiPadはキーボードが別添えできてパソコンのような形にできるものです(フリックではなくタイプ入力できるタイプです)）
- ・どのようにして手話の知識を身につけていったのか知りたいです。どのように勉強していったら良いのか分からないので…
- ・ノートテイクのボランティアをしている人は現在どのくらいいますか？
- ・現在就活中で、支援の仕事にも興味がありますがどう動いたらいいのか分からないので(キャリアセンターに聞けという話なのですが)、何かお話し聞けたらと思います(雑な質問ですみません)。
- ・実際にノートテイクを使って授業を受けている学生は、日本女子大学以外でどのくらいいるのか。ノートテイクはどのくらい認知されているものなのかを知りたい。

※原文ママ

<Q6>

- 今後どのようなイベントがあると参加したいですか？（任意）
- ・ボランティア系のイベントにも参加したいです。
- ・トランスジェンダーの方が入学した際に、触れ合う機会などもあっていいかなと思います。見た目ではわからなかったり、学部が違うと話す機会もないと思うので、社会に出る前に知る必要があると考えます。

- ・教育学科生ということもあり、地域の子供たちや豊明小学校の児童たちと関わるボランティアがあれば、積極的に参加していきたいです。
- ・今回のような支援を必要とする生徒に自分たちと同じような学習環境を提供できるようなイベントがあれば参加したいです。本日はありがとうございました。
- ・私自身も右耳のみ軽度感音性難聴と診断されております。日常生活に支障をきたすことはほとんどありませんが、他の障害のある学生と交流できたら嬉しいな、と思っています。
- ・ノートテイクの練習
- ・学校の中で、今回のようなボランティアとして活動できることがあれば参加してみたい。
コロナで外に出てボランティアというのは中々難しいので、このようなネットでも繋がれて誰かのためになるような機会があればまた参加したいと思う。
- ・手話通訳の入門講座
- ・手話を学ぶボランティア

※原文ママ

【アンケート報告】2021年6月11日・15日

<妊産婦・乳児救護所の運営を考える・キックオフミーティング>

イベント名：妊産婦・乳児救護所の運営を考える・キックオフミーティング

<その1：備蓄物資を見直す>

日時：2021年6月11日（金）、15日（火）12：40～13：10

場所：JWUラーニング・コモンズかえで／Zoom（ハイブリッド）

参加人数：6/11（金） → 対面12名 遠隔26名 計38名

6/15（火） → 対面8名 遠隔17名 計25名

アンケート：50件（回収率：79.3%）

<Q1>

- 本日のイベントについて、どのくらい満足していますか

大変満足	17
満足	29
普通	4
少し不満	0
不満	0

<Q2>

- 今回のイベントに対してご意見・ご要望・ご感想がございましたら、ご自由にお書きください。
(任意)

- ・今後実践的に活動が出来ることがとても楽しみになるイベントでした。オンラインでの参加で途中先生や会場の方の声が聞こえにくくなってしまったことは残念でしたが、次回は実際に対面で参加出来ることを楽しみにしています。ありがとうございました。
- ・災害に向けての学校でできる準備について、様々な観点から考えることができてよかった。勉強になった。
- ・会場の音声が聞こえなかったなので、どんな意見が出たのか教えていただきたいです。また、今年なのですが、卒業後に災害が起こったときボランティアに参加できるかどうか教えていただきたいです。

- ・考えなければいけないことがわかった。自分の問題でもあると実感した。
- ・遠隔の方とも話がしたかった。音声が難しかったらチャット機能を使って話かけてもよいと思った。
- ・前はオンラインで参加しましたが、対面で参加できて、お話を聞いていて思いついた意見も発言することができたので、良かったです。
- ・災害時のことを改めて考える機会になりました。将来、子供を持った際など自分がマイノリティになるときに安心して避難ができる設備を整えることが重要だと思いました。
- ・日本女子大学が妊産婦、乳児救護所に使われていたということを初めて知り、ぜひ災害が起こった時に自分ができることとしてボランティアに参加したいと感じました。今の備蓄倉庫を改善するためのアイデアというものも、なかなか思い浮かばなかったので、日頃から少し意識してみようかなと思いました。
- ・緊急時に必要なボランティアであるため、学内だけで完結するものではなく自治体と協力しながら進めていくプロジェクトということがわかった。災害時の混乱にそなえ入念に準備しながらも、臨機応変な姿勢をキープすることが大事だと思った。
- ・説明を聞いて、ぜひ協力したいと思いました。色々な知恵を出し合って、豊かな支援体制を作って行きたいです。
- ・自粛が明けたら速やかに活動をしたいです。
- ・祖父母が東日本大震災の時に被災しており、防災に興味があるのでぜひボランティアに参加したいと思っています。よろしく願いいたします。
- ・是非協力したいと思った
- ・遠隔だったのですが、音声などが問題なく聞こえてスムーズに参加できました。
- ・前回途中参加だったので2回目です。備蓄の準備も大切ですが、それと同じくらい精神のケアも大切なのだと思いました。
- ・妊婦の方が安全に避難できるように救護所がそれぞれ配置されていることを初めて知った。災害が起きた時に大学にいたら妊婦の方や乳幼児の手伝いをできるようになりたい。
- ・医療関係者の方々が待機している場所があるという話をきいたとき、その人たちは忙しくてストレスがたまっていそうで、その人たちの期待通りの行動ができなかったらめっちゃ怒鳴られそうで怖いと思った。
- ・ダンボールは通常上側から開けるの思うので、一番上に積んでいるものから使用することになると思います。その場合女性でも取る事ができるような踏み台などが必要だと思います。また、踏み台を使用すると時間がかかり危険なので、どの場所からでも使うことができるような棚やケースが必要だと思いました。
- ・自分が知らないこと、改めて考えなければならぬことがたくさんあると気づくことができました。人を助けることに協力できればという目的で参加しましたが、将来これから卒業しても、自分のためにもなりそうなトピックだったので参加して良かったです。
- ・学生ボランティアチームとして参加する条件についても知りたかったです。申し込みのフォーム回答期限をのばしていただけるとありがたいです。
- ・災害が起きる可能性が迫っていること、また、日本女子大学の備蓄物資の状況について知ることができました。"
- ・透明なケースで保管したほうが、視覚的に何が入っているかわかるので、いざ災害が起きたときにどこに何があるのか忘れてしまっても多少安心だと思う。
- ・大学が避難所になる、ということは冷静に考えれば当たり前ですが、そのために私たちが何かア

クシヨンしない限り実際の緊急時に機能しないということに、改めて気づかされました。数名でしたが、他学部の方の意見など拝聴でき、私の思つかない答えがあり発見になりました。また、下記のボランティアチームに関しまして、活動頻度などはどのくらいを予定されているか、決まっておりましたらお教えいただきたいです。また、仮に参加できない日程などがあった場合のみ、参加しなくても大丈夫でしょうか？下の解答欄では一応「参加しない」と回答させていただきましたが、上記にお答えいただけましたら参加を検討させていただきたいと思っております。(できれば参加したい意思はもっております) 個人的でややこしいお話、失礼いたします。"

- ・ガイダンスを受けてこちらのボランティアに興味を持ちました。日程を確認したいので、できれば具体的な活動日・活動ペースを教えてください。

※原文ママ

<Q3>

- 何をご覧になってこのイベントを知りましたか？

JASMINE-Navi	38
以前の社会連携教育センターイベント	13
掲示・プラズマディスプレイ	1
社会連携教育センターHP	0
社会連携教育センターTwitter	2
その他	4

その他…友達に誘われて (2件)

<Q4>

- 社会連携教育センターでは妊産婦・乳幼児救護所の学生ボランティアチームを作ります。このチームに参加していただけますか？

参加したい	45
参加しない	5

<Q5>

- 上記4で“参加したい”を選択した方にお尋ねします。次回ミーティングは、下記の日程のうち、参加希望者が多い日程で実施したいと思います。ご希望の日程を選択してください。(複数回答可)

7月22日 (木) 15:00~16:00	32
7月22日 (木) 16:00~17:00	15
7月22日 (木) 17:00~18:00	14
7月29日 (木) 15:00~16:00	23
7月29日 (木) 16:00~17:00	11
7月29日 (木) 17:00~18:00	13

【アンケート報告】2021年6月17日 <ノートテイカー養成講座>

イベント名：ノートテイカー養成講座

日時：2021年6月17日（木）13：30～16：00

場所：JWUラーニング・コモンズかえで／Zoom（ハイブリッド）

参加人数：対面13名 遠隔16名 計29名

アンケート：27件（回収率：93.1%）

<Q1>

- 本日のイベントについて、どのくらい満足していますか

大変満足	23
満足	4
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q2>

- 今回のイベントに対してご意見・ご要望・ご感想がございましたら、ご自由にお書きください。

(任意)

- ・就活中の息抜きとして参加しましたが、とても充実した時間を過ごすことができました！
- ・タイピングがこのイベントだけでとても早くなった気がします…！自分でも練習しておきます！ありがとうございました！！
- ・想像以上に難しかったですが、とても充実した講座でした。実際に、ノートテイカーとして活動してみたいと思いました。
- ・とてもわかりやすい説明でした。複数の方と交流しながら楽しかったです。
- ・ノートテイカーというはじめての経験でしたが、講義を聞いて聴覚障害者への理解も深まり、活動に参加したいと言う気持ちが高まりました。
- ・ノートテイカー入力側がどのように活動しているか知ることができた。実際にやってみる経験はあまりないので、PCノートテイクを経験できて良かったと思う。
- ・大変勉強になりました。ノートテイカー以前に、聴覚障がいについて知ることができ、あらためてノートテイクの必要性を感じました。本日は本当にありがとうございました！
- ・ゆっくり読み上げられた文でも、置いていかれてしまうことがありました。何度も練習することが大事なのだと実感しました。
- ・実際に体験出来たのがとても良かったです。
- ・本日はありがとうございました。ノートテイカーについて知識が全く無い状態での参加でしたが、聴覚障害の方のお話などもお聞き出来て、大変有意義な時間になりました。実際に入力する体験をし、すごく難しく思いました。このようなイベントに参加することによって、聴覚障害の方、また、ノートテイカーについてもっと興味を持ちました。ありがとうございました。
- ・初めてノートテイクを実践して、話していることが伝わるように、遅れないように記していく難しさを感じました。特に、ペアでのノートテイクでは、相手とテンポよく区切っていくのが難しく、実際に授業で行う時は話すスピードも早いと思うので、大変だと感じました。大変だと感じた一方で、実際にシュミレーションで聴覚障害のある方の聞こえ方を体験し、ノートテイクの重要性が分かりました。ノートテイクをすることで聴覚に障害のある方の役に立ち、学びの機会を保障することができると感じたので、是非ボランティアに参加したいと思いました。今後、タイ

ピングの練習なども行いたいと思います。

- ・ノートテイクは、1講義分まるまるノートを取り、授業後に聴覚に障害がある友人に見せるものだとばかり思っていました！認識が改めることができよかったです！また、聴覚に障害がある生徒さんのリアルな授業スタイルをお聞きすることができて良かったです。私は教員を目指しているので、今日学んだことを生かしたいと思います。
- ・ノートテイクについて詳しく学んだ後、実際に練習もできたので良かったです。今回学んだことを機会があれば活かしたいと思いました。
- ・本当にステキなイベントをありがとうございました。たくさんの良い刺激を受け、また温かい気持ちになった3時間でした。イヤホンの不調の際も日光で画面が見えにくい際も、大変お優しくスタッフの方にご対応頂き安心して参加する事が出来ました。ありがとうございました。今後もイベントを楽しみにしております。
- ・みんなで顔を合わせてグループワークができなかったのが残念です。ノートテイクはとても難しかったけれど、聴覚に障害のある学生さんの役に立てることが一つ出来たことが嬉しいです。
- ・はじめてのボランティアについての講座、そしてはじめてのノートテイクでしたがとても興味深く楽しく参加できました。ありがとうございました。

※原文ママ

<Q3>

- 何をご覧になってこのイベントを知りましたか？

JASMINE-Navi	21
4月開催の社会連携教育センターイベント	3
その他	4

<Q4>

- 社会連携教育センターでは聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームを作ります。このチームに参加していただけますか？

参加したい	23
参加しない	4

<Q5>

- 今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、大学としてまとめ、講師にお伝えします。(任意)
- ・特に質問はないのですが、とても丁寧でわかりやすい講義ありがとうございましたと感謝をお伝えしたいです。
- ・耳が聞こえない人とのコミュニケーションに興味があり、元々は手話を始めたいと思っていましたが、ノートテイクというボランティアがあると知り参加させて頂きました。難しかったのですが、とても楽しかったです。ありがとうございました。今回の趣旨からずれてしまい申し訳ないのですが、手話を習うとしたら、今はYouTubeなどにも講座はありますが、どこで習えば良いのでしょうか。

※原文ママ

<Q6>

●今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。（任意）

- ・多様な種類のボランティア活動に参加していきたいです。よろしくお願い致します。
- ・実際に体験しながら参加できるイベントや今回のように遠隔からの参加も可能なイベントであると参加しやすいなと思いました。障がいのある方を支援できるようなイベントは、また参加したいと感じます。
- ・今回の講義だけで実践の場に出るのは流石に心配なので、もし学生さんをサポートするとしたらもう少し練習をする機会を設けて頂き、コツを掴んでから参加したいです。イベントについてはどんなものがあるのか自分には知識が無いので、どのような場でも自分が役に立てるところで支援を試みたいと思います。

※原文ママ

【アンケート報告】2021年7月15日ボランティア入門講座

イベント名：ボランティア入門講座

日時：2021年7月15日（木）13：30～15：00

場所：JWUラーニング・コモンズかえで／Zoom（ハイブリッド）

参加人数：22名

アンケート：21件（回収率：95.5%）

<Q1>

●本日のイベントにどのくらい満足していますか？

大変満足	13
満足	6
普通	2
少し不満	0
不満	0

<Q2>

●今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。（任意）

- ・ボランティア関連はTeamsに流していただきたいです。
- ・使っている言葉が素晴らしかった。
- ・ボランティアについての考え方や、ボランティアの種類について詳しく教えて頂けて、とても勉強になりました。長い時間ありがとうございました。
- ・私は被災地に支援しに行きたいとずっと思っています。今は難しくても、積極的に課外活動をしようと思いました。ありがとうございました。
- ・ケンさんのお話を聞き、自分がボランティアに対して何かすごいと思われるようなことをしなければならないと考えていたことに気がついた。これからは、自分には何ができるのかということに焦点を当てて活動を考えたいと思った。
- ・今回の講座を通じて、ボランティアに対する考え方が変わりました。“やりたい”が“できる”を大切に活動していきたいと思えます。
- ・ボランティアを身近に感じることができました。これから様々なボランティア活動に積極的に参加しようと思えます。本日はありがとうございました。
- ・ボランティアは小さいものから大きいものまで多種多様なものがあるということで、視野が広ま

りました。その分、どういったことをしたいのかよりわからなくなりました。

- ・この夏、ボランティア活動を予定しております。注意事項、参考になりました。
- ・ボランティアに対するハードルが下がりました。上手く行動できなったらどうしようと不安を感じていましたが小さなこともボランティアだということで、小さなことから行動していきたいと思えます。
- ・ボランティアの活動に、上下の差はないというところが印象的でした。私は、ボランティアというと、海外にいたり、被災地に行ったり、人のためになった感が大きなものでないとボランティアと言えないのではないかと感じていました。自分のできることから、取り組めばいいのだということがわかりました。
- ・千葉県で東ボラのように安全なボランティア検索サイトがあったら教えていただきたいです。
- ・ボランティアを行う上で大切な考え方や、いろいろなボランティアがあるということを知ることができて大変勉強になりました。小さなことでも自分にできることを考えて、参加できるボランティアがないか調べてみようと思いました。ありがとうございました。
- ・私はボランティアの経験が無く、この夏休みに何かしらのボランティアに参加したいと思い、今日の講座を受講しました。ケンさんのお話で、一番印象的だったのは、関係をつなぐからつむぐに変えるということでした。私のボランティア観が塗り替わったように思います。お話、どうもありがとうございました！
- ・ケンさん、ご講義していただきありがとうございました。私は興味はあるのに、なにから始めたら分からないというのがありました。今日はそんなことないんじゃないか、と思いました。ボランティアに上下はないというお話や支援する側・される側のお話もとても印象的でした。私は、現地に行って、ボランティアをすることに興味があるのですが、授業があってもいけなかったり、そこに行くまでのお金はどうするんだろう、と思います。時と場合によって違うと思うのですが、どういう感じなのでしょう。授業がある場合はしょうがないのかな、と思う気もします。また、災害などでボランティアに行く際、応募があると思うのですが、そういうのにしっかり応募した方がいいのでしょうか。またどのくらい行くものなのでしょう。一人で行くより仲間と行った方がいきやすいということもありますか。
- ・ボランティアに対するハードルが下がり、気軽に参加してもいいのだと思いました。質問なのですが、印象に残っている、やりがいがあったと思われるボランティアのエピソードはありますか。
- ・ボランティアとは横のつながりで成り立っている事、またそうした活動は私達も普段自然と行っている事柄と繋がっているという事、それらを生かして「やりたい」という意志を実現させる活動であることという、本質的な意味を学ぶことができました。
- ・ボランティアの情報が載っているサイトで、「ボラ市民ウェブ」以外におすすめがあったら教えていただきたいです。

※原文ママ

<Q3>

●今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。（任意）

- ・具体的に参加したいイベントはまだ決まっていますが、社会で助けを求めている人の役に立てるような活動に挑戦していきたいと感じました。
- ・具体的なものは考えていませんが、コロナによって困っている方々を支援するものがあればやってみたいと思っています。

- ・外国人や日本語のわからない人とコミュニケーションをとるボランティアに参加したいと感じました。
- ・参加可能なボランティアの説明会などがあつたら参加したいです。
- ・国際ボランティアと災害などのボランティア、自分の英語を上達させるために、言語が話せる場のできるボランティアをやって見たいです。
- ・人生経験が豊富な方のおはなしを聴けるイベント

※原文ママ

【アンケート報告】2021年10月7日 <ノートテイカー養成講座>

イベント名：ノートテイカー養成講座

日時：2021年10月7日（木）13：30～16：00

場所：JWUラーニング・コモンズかえで／Zoom（ハイブリッド）

参加人数：対面7名 遠隔17名 計24名

アンケート：18件（回収率：75.0%）

<Q1>

- 本日のイベントについて、どのくらい満足していますか

大変満足	13
満足	6
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q2>

- 今回のイベントに対してご意見・ご要望・ご感想がございましたら、ご自由にお書きください。

(任意)

- ・二人ペアになったのタイピングがとても難しかったのですが、楽しい講座でした。ありがとうございました。
- ・とても楽しかったのですが、少し時間が長いような気がしました。
- ・机上也実践もできてためになりました。ありがとうございました。
- ・元々関心のあるテーマだったため非常に興味深く、また勉強になりました。ありがとうございました。ただ途中休憩があったものの、私には少々講義時間が長いように感じました。
- ・知らないことをたくさん知ることができて楽しかったです。講師の方たちのやさしさも伝わってきました！ボランティアチームは検討中です、迷ってますが前向きに考えたいです。
- ・想像以上に難しかったです。実際に打つ練習をした際には、音声にタイピングが間に合わず焦ってしまい、もっと早くできるようになる必要があると痛感しました。また、変換をミスしないことや句読点をいれることの大切さを知り、読みやすい文章をつくることが重要だと感じました。
- ・本日は貴重なお時間をありがとうございました。耳で聞き、手でうち、目でタイピングを見計らって打つという初めての経験でした。途中、混乱してしまいペアの方にご迷惑をかけてしまいましたが、自分にとってとても良い経験と学びを得られたと思います。自分の中でタイピングの練習をしてから、機会があればボランティアに参加させていただけたらと思います。本日はありがとうございました。
- ・zoomで参加しましたが、遠隔で説明する際に大変なことが沢山ある中で素晴らしい講義をして

くださり、感謝申し上げます。私は普段もっとタイピングが遅いのですが、「誰かのために、相手がいるから」と思うといつもより速く打てました。今は少し自分の授業で手一杯なので、落ち着き次第参加させていただきたいと思います。改めて伺います。今回は本当にありがとうございました。

- ・初めて使う機能で戸惑いましたが、一つ一つ丁寧に解説して下さったのでなんとか使用することができました。
- ・細かいところでも褒めてくれるので嬉しかったです。"
- ・本日は貴重な機会をいただきまして、ありがとうございました。聴覚障害について詳しく知るきっかけに繋がっただけでなく、自分の新たなスキルを身につけるきっかけにもなったと思います。改めて、ありがとうございました。
- ・自分が音を拾って自分で理解するのと、他の人のために情報として伝えることの違いを感じて難しかったです。
- ・聴覚障害は見えない障害だからこそ、より支援を必要としていると思います。そういった中で今回このようなイベントに参加し、聴覚障害について理解を深められたということは大変貴重な経験になりました。実際にノートテイクをやってみて、手と耳と目を同時に使うことの難しさを知るとともに、支援の必要性や有効性も感じました。
- ・今回のイベントに参加して、説明を聞き、入力を実際に経験してみて、特に交互で入力するときの区切りが大変だと感じました。しかし、うまく入力できると嬉しく感じました。実際にノートテイクの練習や体験をして、ノートテイク者として活動したいと思いました。
- ・聴覚障がいの方がどのような支援を求めているのかを知れただけでなく、実際に体験することで、より深い学びができました。ノートテイクは初めての経験で、タイピング技術もなく、自分の力不足さと申し訳なさを感じる実技となってしまいましたが、体験してみなければ分からない世界だったので、貴重な経験ができて良かったです。この経験、反省を、次に繋げたいと思いました。まだ実力不足なので、まだ参加は迷っていますが、機会があればまた参加したいです。

※原文ママ

<Q3>

- 何をご覧になってこのイベントを知りましたか？

JASMINE-Navi	18
その他	1

<Q4>

- 社会連携教育センターでは聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームを作ります。このチームに参加していただけますか？

参加したい	15
参加しない	4

<Q5>

- 今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、大学としてまとめ、講師にお伝えします。(任意)
- ・資格等は取れますでしょうか。
- ・素敵な講義をありがとうございました。自分にできることで人の支援ができるのだと感じました。

- ・自分の学科と全く違う分野の授業などだと聞いたことのない単語も出てくるかと思いますが、予習は必要でしょうか？

※原文ママ

<Q6>

●今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。（任意）

- ・ノートテイクの連携をもう少し練習したいので、練習できる口座があればぜひ参加したいです。
- ・ピアサポーター育成講座
- ・ボランティア系のイベントに参加したいです。
- ・今回のように、自分の今までの生活の中では全く知ることができなかった生き方や考え方に触れられるようなもの。
- ・LGBTの方とコミュニケーションを取れるようなイベントなどには参加してみたいです。
- ・学内でできるボランティアなら、なんでも参加しやすいと思います。

※原文ママ

【アンケート報告】2021年10月30日

<みんなの避難所教室>「妊産婦・乳児を守る避難所をつくりたい」

イベント名：<みんなの避難所教室>「妊産婦・乳児を守る避難所をつくりたい」

日時：2021年10月30日（土）10：00～11：30

場所：オンラインによる遠隔開催（Zoom）

参加人数：30名

アンケート：11件（回収率：37%）

<Q1>

●今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	4
本センターTwitter	0
チラシ（文京区）	1
文京区メーリングリスト	3
その他	3

その他…ボランティアのteams（3件）

<Q2>

●今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・0歳児がいるため、災害時どうしたら良いか心配であったため。
- ・文京区の妊産婦救護所について勉強したかったから
- ・どこに非難すべきか
- ・妊産婦の方々が、日本女子大学の妊産婦乳児救護所に関してどのような認識を持っているのか、それに関してどんなことを進めて行けるのかについて興味を持ったから。
- ・避難所の場所と何があるかが知りたかった。
- ・救護所の運営体制やどのような情報が管理されるのかを知りたいと思いました。
- ・日本女子大学でどのような取り組みをしているのかを知るため
- ・実際に妊婦の方や小さな子どもを持つお母さんの声を伺ってみたいと思っていました。
- ・乳幼児、妊婦さんへの支援の仕方

- ・これまでボランティア活動にあまり参加できていなかったもので、より深く理解するため。
- ・通常の避難所と違うのでどのように運営されるのか、できることはあるか。

※原文ママ

<Q3>

●今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・具体的な整備状況と課題点が示されており、もしもの時のための安心材料となった。
- ・今回の詳しい説明や、実際に来るかもしれない妊産婦さんや赤ちゃんがいるお母さんたちの話を聞いて、すごく良い機会になりました。
- ・多言語対応、やさしい日本語対応、よろしく願いいたします。
- ・豊島区に在住の妊産婦乳児も受け入れるのであれば、豊島区の方々も参加できるようにすれば良いと思いました。
- ・避難所の具体的なイメージが湧いた。夫が入れないのは残念だが、人数・セキュリティ上仕方がないと感じた。ハイリスクで帝王切開でないと産めない場合は、必要に応じて救急車を呼んでもらえる体制かが気になった。
- ・運用体制、場所、物資などを具体的にご説明いただき、大変によく理解することができました。また、課題意識や今後考えなければいけないことを実直にとらえているご様子に感動しました。ありがとうございました。
- ・参加者が聴きたい事を聴けるという回にはなったかなと思いました。今後は、区の担当課（防災、子育て支援）と近隣の方に来てもらって現場訪問が出来ると良いですね
- ・実際に救護対象となる方々の視点から意見を伺うことができ、今後の課題が見えてくる良い機会だったと感じます。備えあれば憂いなしをモットーに、引き続きボランティア活動に参加したいと思っています。
- ・とても興味深いお話をありがとうございました。妊婦さん赤ちゃんへの支援の仕方を知ることができました。もし災害が起きたら、私にも何かできることをしたいなと思いました。出すぎた意見を失礼いたしました。次回も楽しみにしております。
- ・乳幼児・妊婦避難所になっている大学の区での位置が偏っていたので、避難所を知らない人が多そうだと思った。妊婦の方が行くような所(病院など)にパンフレットがあればいいなと思った。
- ・先生が明るい雰囲気ですぐ具体的なところを話して下さったのがよかったです。避難所がみんなで作っていく場であることが浸透すれば、安心な避難所になると思いました。

※原文ママ

<Q4>

●次回（3月頃を予定）は「安心できる「妊産婦・乳児救護所」をみんなで作っていこう」を開催予定です。このイベントに参加されますか？

参加したい	5
日程が合えば参加したい	5
内容によっては参加したい	1
参加したくない	0

<Q5>

●社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・実際に泊まってみて、どんな感じかとかのシミュレーション（有料でも？）
- ・他大学の避難所の状況についても情報がほしい。
- ・すぐには思いつかず恐縮ですが、社会・地域の課題を大学と社会で共有できる機会を創出していただけると大変にありがたいと思います。しやすい環境整備、共働き世帯の現状改善意見交換、今回のテーマ関連など。

※原文ママ

<Q6>

●よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	0
現在子育て中の方	3
本学学生	4
本学教職員	2
その他	2

【アンケート報告】きっかけはなんだってOK！～文京区のボランティア・地域活動紹介～

イベント名：きっかけはなんだってOK！～文京区のボランティア・地域活動紹介～

日時：2021年11月11日（木）14：30～16：00

場所：JWUラーニング・コモンズかえで（対面）

参加人数：16名

アンケート：13件（回収率：81.2%）

<Q1>

●本日のイベントにどのくらい満足していますか？

大変満足	9
満足	4
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q2>

●今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。（任意）

- ・文京区の取り組みがわかった
- ・ボランティアに対する認識が変わり、とても勉強になりました。
- ・イスが硬いのでクッションを持参しても良いですか？
- ・面白かった
- ・ボランティアとはという自分の中で不確かなものが少しでも明確になった気がします。自分のやりたいことを恥ずかしながらもお話することが出来て、これから活動していきたいなという思いが強くなりました。

※原文ママ

<Q3>

- 今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	10
学内掲示板	2
その他	4

その他…職員の方に誘われて、平田教授より伺った、友達の紹介、Teams

<Q4>

- 現在、学内のボランティアとして、聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームと妊産婦・乳幼児救護所ボランティアチームがあります。この活動をご存じでしたか？

知っている。または参加している。	7
知らない。	6

<Q5>

- 社会連携教育センターでは、学生のみなさんのボランティア活動や地域活動を支援しています。この取り組みをご存じでしたか？

知っている。	6
知らない。	7

<Q6>

- 今回のイベントに参加して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、大学としてまとめ、講師にお伝えします。（任意）

・なし

<Q7>

- 今回のイベントに参加して、どんなボランティア・地域活動を試してみようと思いましたか？（任意）

- ・ゴミ拾い、絵葉書を書くなど
- ・自分の住んでいる市のボランティア
- ・大学生にしかできないこと
- ・高齢者向けのボランティア活動を参加したい
- ・自宅でもできるボランティアがあることを知ったので、まずはそのような活動をしていきたいと思いました。
- ・私は朗読を試してみたいなと思いました。

※原文ママ

<Q8>

- 今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。（任意）

- ・教育関係
- ・コロナ禍で再開出来ないこども食堂関連
- ・文の京十八の町物語を聞く
- ・ボランティアについて相談するところがあると知ったので、相談しながら、身近なことからはじめたいと思いました。

- ・やはり様々な大人のかたがたのおはなしが聞きたいです。大学主催ということで、安心して参加できますし、企画して頂かないとおはなしをきくきかいもないからです。

※原文ママ

【アンケート報告】子どもたちからのメリークリスマスプロジェクト～思いをかたちに

イベント名：子どもたちからのメリークリスマスプロジェクト～思いをかたちに

日時：2021年12月18日（土）13：30～15：30

場所：JWUラーニング・コモンズかえで（対面）

参加人数：親子7組（保護者8名、子ども13名）、学生（応募者）4名

アンケート：6件

<Q1>

- 本日のイベントにどのくらい満足していますか？

本学ホームページ	1
本センターTwitter	1
チラシ（公園等）	0
BUNKYO for ALL	0
子育てサイエンス・ラボメールマガジン	0
学内掲示	0
JASMINE-Navi（本学学生のみ）	1
友人からの誘い	2
その他	1

その他…お誘い

<Q2>

- 今回のイベントに参加した理由はなんですか？（複数回答可）

日本女子大学で開催するイベントに興味があったから	2
クリスマスイベントに興味があったから	3
ものづくりが好きだから	1
ポッチャなどをやりたかったから	2
福祉の内容に興味があったから	0
大学生との交流をしたかったから	1
地域の方との交流をしたかったから	1
親子で交流をしたかったから	2
家が近かったため	0
時間があったため	0
その他	1

その他…所属学科主催のイベントに興味があったから

<Q3>

- 今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・とても楽しいイベントでした！
- ・学生の皆さんと子供達が楽しく交流出来て良かった。

- ・想像した以上に親子ともに楽しい時間を過ごせました。コロナ禍でなかなか外出する機会が限られる中、大学生が心を込めておもてなしをしてくれて、子ども「楽しかった!」と大満足でしたし、大人も心地よい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・親子共々楽しい時間を過ごせました。特に帽子作りは、久々の物作りで没頭して楽しめました。学生が全て企画運営をされたと聞いて驚きましたが、大学生にとっても参加する親子にとっても貴重な体験となったと思います。またこの様な機会があれば、参加させていただきたいと思います。
- ・コロナ禍でボランティア等ができず、地域交流や小さいお子さんとの関わりが少なくなっていたので、とても楽しかったです。学生最後に良い思い出ができました!

※原文ママ

<Q4>

- 社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・七夕
- ・地域の方と触れ合える活動等。
- ・クリスマスだけでなく、日本の伝統行事などのワークショップもあると良い。
- ・先日行った、SDGsのズームでの講習会の様な、今話題になっている事の講習会があれば参加したいと思います。

※原文ママ

<Q5>

- よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。(複数回答可)

近隣にお住まいの方	0
現在子育て中の方	2
本学学生	3
本学教職員	1
その他	0

【アンケート報告】JAL社員と考えるSDGs

イベント名：JAL社員 と考える SDGs

日時：2022年1月20日（木）13：30～15：30

場所：遠隔（Zoom）によるオンライン開催

参加人数：42名（講座開始時人数・途中退席有）

アンケート：28件（回収率：66.7%）

<Q1>

- 日本航空（JAL）実施による講座全体の満足度をお聞かせください。

とても満足した	24
満足した	4
満足しなかった	0
全く満足しなかった	0

<Q2>

●問1の回答の理由を具体的にお聞かせください。

- ・具体的な取り組みが詳細にわたり説明され、イメージやアイデアが湧きました。
- ・とても興味があるJALとSDGsをあわせて学ぶことができたため。
- ・SDGsについて学べたとともにJALの取り組みを知ることができたから。また、自分たちで考える機会をいただき、主体的に考えるきっかけになったから。
- ・スライドが見やすく、JALの新しい取り組みについて、知ることが出来ました。キャビンアテンダントが各室乗務員以外にも故郷アンバサダーとして働いていることも知り、客室乗務員として働きながら、自分の故郷に貢献できることはとても魅力的だと思いました。
- ・jalの取り組みについても知ることができ、ディスカッションで他の学生と交流ができたから。
- ・長い間非常に興味を持っていたJAL様であることに加えて、SDGsにフォーカスしたセミナーに初めて参加し、とても貴重な時間となりました。ありがとうございました。
- ・新鮮な意見をたくさん知ることができました。最高の時間を過ごさせていただきました。
- ・JALグループが取り組んでいるSDGsの活動について具体的な事例を用いて話してくださったので、大変貴重な学びになりました。
- ・グループディスカッションなどで様々なアイデアを交換し合うことが出来たから。
- ・これからの企業の在り方について理解が深まったから。
- ・SDGsだけでなく、JALの活動についても良く知ることが出来たから。
- ・地域活性化方法について今まで考える機会がなかったため、どのような取り組みをすればよいか考える機会になった。また、JALの取り組みについて知る機会になった。
- ・あまり、自身の周りにSDGsやその他社会問題について話せる人がいなかったため、今回自分意外にお関心のある人の集まりに参加することが出来て楽しかったから。
- ・航空に関する業務内容以外に、日本の地方の観光業や農業などの様々な活動に携わっているということを知ることができて非常に有意義な講義であったから。
- ・SDGsに向けて、JALが行っている取り組みについて動画を交えながら具体的に説明していただいたので非常に理解しやすかったです。また、最後にグループディスカッションをしたことで日高地方の活性化のために何が出来るか主体的に考える時間が持て、有意義な時間となりました。
- ・実際に貴社が行っているSDGsへの取り組み方を、インターネット上で知る内容ではなく、直接社員の方からお伺いすることで、より一層理解が深まりました。又、グループワークを通すことで、チームとして動くことの楽しさや、グループによって考え方が異なるなど様々な学びを得ることができました。
- ・本日の講義を通じて、SDGsとしっかり向き合うことができました。今まで、SDGsとは環境問題や格差社会の改善に取り組むといった難しい内容のものだと考えていました。しかし、地域活性化のために地方を訪れるなど、私自身でも行えることがあることを学ぶことができました。
- ・旅客事業以外のJALの取り組みについても学ぶことができたため。また、コロナ化で経営が難しくなっているが、今後どのように事業展開していくのかを学べたため。
- ・グループディスカッションでは、他の学生の皆さんとアイデアを出し合うことで、自分一人では考えられなかった提案をすることができました。他者との交流の中で新たな発見を見出すことの楽しさを実感いたしました。ありがとうございました。
- ・SDGsについての座学はもちろんのこと、貴社がどのような取り組みをされていて、それがどのような社会貢献になっているのかを学ぶ良い機会となったため。また、実際の街をどの様にして

活性化させるのかというグループワークも通して、日本社会における課題というのも見直すよい機会となったから。

- ・SDGsについて知識はあっても、自分でアイデアを出して話し合いをするという機会はなかったので、今回の講義により改めてSDGsについて考えるきっかけにもなりましたし、自分なりの理解を深めることが出来ました。
- ・将来日本航空で働きたいと考えており、現在企業研究などを行っていますが、日本航空様が行われているSDGsについてより分かりやすい知識を得ることが出来、またSDGsについての問題意識を持つことが大切であると感じました。また、グループワークを通して様々なアイデアに触れることが出来、自分自身も勉強になることが多くありました。
- ・JALが航空機や航空だけの業務だけでなく、地域にも貢献している具体的な取り組みを知ることができた。
- ・実際にJALの社員の方々から、JALの取り組みについて詳しく教えていただくことができ、自分でイメージしていたJALの業務内容以外のことも知ることができたため、とても良かったです。
- ・航空会社の様々な地方の取り組みを初めて知ることができました。私の地元も田舎で少子高齢化が問題視されています。日本航空さんのような様々な取り組みを行う大きな企業が町を活性化してくれることは、地元民だけでは気づかない、できないような取り組みを実現できる感じたからです。
- ・実際にJALが会社全体でSDGsに取り組んでいる具体的な例を知ることができたから。
- ・先生のお話がとてもわかりやすく勉強になりました。JALはSDGsに向けて様々な取り組みを行なっていることが知れて勉強になったし私も実践してみたいなと思いました。SDGsについて興味はあったけど具体的な内容までは知らないことの方が多かったのでこういう点も含めて学ぶことができたので参加して良かったです。
- ・SDGsについてよく考えることができた時間となったから。

※原文ママ

<Q3>

- この講座を他の学生にも薦めたいと思いますか。

強くそう思う	20
そう思う	8
あまりそう思わない	0
全くそう思わない	0

<Q4>

- 問3の回答の理由を具体的にお聞かせください。

- ・学びがあり、リラックスして取り組める楽しさやすさも踏まえて薦めたいです。
- ・企業のSDGsへの取り組みを理解できるから。
- ・私はJALへの就職やその他航空会社への興味があるため、そのような人にとってはより良いと感じたため。
- ・JALに限らず、SDGsについて、幅広い内容を取り扱っており、SDGsの理解度を高めることができるので、この講座はとても自分のためになると思います。SDGsは近年より注目されており、私たちの世代はよりSDGsについて、学び、取り組むことを求められていると思います。
- ・充実したものだった。

- ・自分の力だけでは及ばないような解説を頂けたことに加え、チームで考えた施策に対し簡単なフィードバックを頂けた点も非常におすすめしたいと考えます。
- ・視野が広がるから。
- ・SDGsという言葉が先走ってしまっていて、しっかり内容を知らない学生も一定数入ると思うので、深い学びを得るためにとても良い講義だと感じたから。
- ・持続可能な社会についても学ぶことが出来て充実した時間を過ごすことが出来たから。
- ・他学生とコミュニケーションを取り、交流を深められたから。
- ・話を聞くだけでなく、グループで一つの課題を考える時間があったから。
- ・普段の授業では、学べないことを学べるため。
- ・やはり、自分だけの意見よりも人と話し合った方が意見の幅や話題が広がり新しい視点で物事を射ることが出来るので、そのような体験をしたい人には強く勧めたい。
- ・SDGsに関して講義を受ける機会はあったものの、各企業からお話を伺った上で、それに関連した具体的なSDGsの活動を考え、広めていく手段をディスカッションするという機会はあまり得られない。そのため、今回のようにSDGsについて同年代の人と話合うことで、自分の関心も高まったから。
- ・SDGsという言葉は知っているけれどもその内容についてはよくわからないという人にも理解しやすい講座となっているのはもちろん、双方向型の講座なので主体的に学ことができ、就活で求められるような発表の際に順序立てて発言をする練習もできるからです。
- ・最近では、SDGsという言葉はとてもよく耳にしますが、実際にどんな意味なのかどんな取り組みがあるのかと理解が浅かったことが今回の講座で私自身判明致しました。しかし、講座を通すことで、SDGsに対する人々の思いや取り組み方を学ぶことができ、一步成長したような気分になりました。
- ・SDGsについてより身近に感じることが出来るからです。
- ・テレビや広告では見られないJALの一面を学ぶことができたため。
- ・企業としての取り組みを深く理解することができ、グループディスカッションなどの実践も体験できたことはとても良い学びになったと思うからです。
- ・今後、社会の中で生き残っていくためには、環境に優しい会社が残ると私は考えている。なぜなら、国連でSDGsという目標ができてしまった以上、その取り組みを行わない企業は評価されないと考えるから。だから、実際この様な実在する企業がどのような社会貢献の取り組みをしているのかを学び、将来の社会全体の成長につなげていけるのではないかと考えているから。
- ・現役で働いていらっしゃる方々から直接お話しをうかがえる機会は貴重ですし、最後に質問などもさせて頂いて有意義な時間でした。
- ・実際にSDGsについてのお話を伺うことができるだけでなく、他の学生とのグループワークを通して意見交換や交流ができるところが魅力的であると感じました。
- ・SDGsは、多くの人が関心を持ってこそ実現に近づくことができる目標なので、より多くの人に知ってもらいたいと思った。
- ・SDGsについての知識を増やすこともでき、グループワークにて自分の意見を発信する力を身につけることができるからです。
- ・実際の社員さんがどのように企画を実現したかなど、私にとって働いている方のお話を聞けるは貴重な機会でした。
- ・グループディスカッションを通して、他人と意見を交換できた良い機会だったから。
- ・SDGsは全世界が注目している開発目標だしてテレビなどでもSDGsについて以前より耳にする機会

が増えている。SDGsは本当に大切な開発目標だと思うのでまだSDGsについてそこまで知識が深くない人を知ってほしいのでこのプログラムをオススメしたいです。

- ・SDGsについて実際に企業が行っていることを通して勉強できるから。

※原文ママ

<Q5>

- 講座受講前後でJALのイメージに変化はありましたか。

大きくプラスに変化した	22
ややプラスに変化した	6
ややマイナスに変化した	0
大きくマイナスに変化した	0

<Q6>

- 問5の回答の理由を具体的にお聞かせください。

- ・地域活性化はJALの仕事のほんの1部だと思いますが、その充実感や丁寧な取り組みから社内全体の雰囲気もくみ取れました。
- ・JALふるさとプロジェクトやバイオジェット燃料など地域活性化に取り組んでいることを知ったから。
- ・航空事業だけでなく、他の事業（社会参画等）にも力が入っていたため、魅力に気づけたため。
- ・JALといえば、“航空業界”という印象が強く印象がありましたが、それ以外にも地域活性化など幅広い分野でSDGsに積極的に取り組んでいることを知ったからです。
- ・地域活性化に取り組んでいることが意外だった。
- ・航空のイメージが強かったですが、そのほかの面も持ち合わせることからイメージや興味が広がりました。ありがとうございました。
- ・素敵な社員さんたちと対話することができて、JALの取り組みについても学ぶことができました。
- ・航空事業だけに頼った事業体制ではなく、コロナ後の世界へ向けて他の事業に積極的に取り組んでいる姿勢があること。また、地方の地域活性化に向けて知らなかったプロジェクトが沢山あり、地域の魅力を伝える意識に感銘を受けたから。
- ・持続可能な社会への取り組みをしているということが分かったから。
- ・環境や未来のことについても考えられていたから。
- ・航空会社であるのに、地域の活性化に向けて活動をしているということを知ったからです。自分たちの利益だけでなく、日本の課題解決に尽力しているところが素晴らしいと思いました。
- ・JALは色々な取り組みを裏でされていることが分かり、これからも、旅行する時は利用したいと思った。また、故郷納税などにも積極的に参加したいと思うきっかけになった。
- ・JAL＝飛行機のイメージがかなり強かったので、今回ポストコロナに向けて地域密着型の社会貢献の話聞いて飛行機だけじゃないんだと、イメージが変わりました。
- ・航空産業に関する仕事だけでなく、日本の地域貢献にも積極的に取り組まれていることを知ったから。
- ・元々プラスのイメージは持っていたものの、持続可能な社会に向けた新たな取り組みについて理解することができたからです。また、お話しして下さった方々のご対応も非常に丁寧でより、プラスのイメージになりました。

- ・ 貴社で働いている方々は皆、最後に塩崎様が仰られていた「利他の心」を持ち、常に表現してくださっていると感じております。今回の講座を受け、人だけでなく地域にもこのような美しい心を持ち、取り組みを行っている姿を知ることができ、貴社への志望度がかなり高まりました。私も、JALフィロソフィの中から自分が1番なりたい姿を想像し、一つ決め、就職活動に取り組んでいきたいと思えます。本日は、貴重な体験をありがとうございました。
- ・ 旅客事業のイメージが大きかったのですが、JAL農業留学やふるさと納税、そして、JALふるさと応援隊の方々の活動などから、地域活性化などの社会貢献をたくさん行っているということを知ることができました。世界と繋がっているだけではなく、日本のさまざまな地域と繋がっているということを強く実感いたしました。
- ・ アンバサダーを設けて地域活性化に積極的に取り組まれていて、人や物を運ぶだけではなく、その先の体験を充実させてもらい、地域とJALとの結びつきも強めているというところに魅力を感じた。
- ・ 以前から、地域への貢献に重点をおかれているイメージがありましたが、その具体的な内容や社員の皆様が率先して携わっているということを理解することができたと思えます。
- ・ もともと貴社がSDGsの取り組みをされていたことは知っていたが、実際どの様な取り組みをされているのかは知らなかった。コロナ禍で旅客機が飛べない中、社員全体が一丸となって社会貢献をされているということを知り、より貴社をサポートして成長させたいと強く感じた。
- ・ 旅客のイメージしかなかったので、地域に密着した活動もされているという事を知ることが出来ました。
- ・ 講座を受講させていただき、社員の方々は、普段の業務内容だけでなく地域活性化通して現地の方々に対する思いやりを持って活動をしているということを知り、とても暖かな心を持った方が多いというイメージを持ちました。また、実際に美しい心をもつというJALフィロソフィについてのお話もあり、いかに社員の方々がJALフィロソフィを大切にされているかを実感することが出来ました。
- ・ 前述した通り、課題のある日本の地域を盛り上げようとさまざまな工夫がみられ、地域の人々との交流を大切にしているところがよかった。
- ・ 航空会社の利益だけを考えているのではなく、地域活性化への力も入れていて、地域とJALが一体となって物事を行動していたことをこの講座を受講するまで知らなかったためイメージが大きく変わりました。
- ・ コロナウイルスで人員を削減されたというお話を聞き、とても衝撃的でした。しかし、コロナ禍にふるさとアンバサダーといった、国内でできることでありながら地域活性化・交流に力を入れていることを知ることができたからです。
- ・ 自分が想像していたよりも遥かに多くの取り組みをされていたことに驚いたから。
- ・ JALの関係者の方々がSDGsの取り組みについて教えてくれてよりSDGSについて興味がわいたのと同時にJALへの関心が高まりました。SDGsに取り上げられている問題は個人がただ頑張ってもまだ足りないと思うので企業側も積極的に参加することで解決につながっていくと思うのでこういったSDGsに積極的に取り組んでいてすごいと思ったのと同時に素敵なことだと思いました。
- ・ もともとJALの取り組みについて知っていたが、より詳しく知れたから。

※原文ママ

<Q7>

●この講座をより良いものにするため、ご意見がございましたらぜひお聞かせください。(任意)

- ・JALのフードロス（機内食等が出る）などにも興味があったから知りたかった。また、今回の内容とは異なりますが、自分自身JALという企業に興味があったため、企業について知れるような機会が欲しいです。司会の方が優しかったため他の企業さんのイベントにも参加する意欲に繋がりました。
- ・業界分析、企業分析、採用情報等へさらにふれて頂けると幸いです。
- ・貴重なお時間をありがとうございました。
- ・ディスカッションの時間はとても楽しかったです。また、実際に地域の問題を考えながらその解決策をあげるというのは難しいことなのだと分かりました。
- ・JALの航空産業に関しての仕事内容についてももっと知ることができたらいいと思った。
- ・もう少しテンポよく話していただけると聞き取りやすかったかなと感じました。また、グループディスカッション以外でも講義中にチャット機能を使って講師の方と生徒との交流が図ればよりお互いの意見を共有できたのではないかなと思いました。本日は貴重なお話をありがとうございました。
- ・本日は貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。もともと航空業界に興味があったことと、SDGsの取り組みを重視している企業に軸を置いて現在就職活動をしていたので、本日貴社のウェビナーに参加いたしました。本日特に印象に残ったことが2点ございます。まず、ご登壇していただいた職員の皆様のお言葉が美しく、まさに日本の接客業を代表される会社だなと感じました。イレギュラーな状況があったとしても、丁寧な対応をされていたので大変印象が良かったです。そして2点目は、事前の資料も含めて全体的に理解しやすかったということです。参考資料も見やすく、また流れも円滑だったので、理解に苦しんだ点がありませんでした。本日の貴社の講座で、どんな企業でも社会貢献の幅に制限がないという事を改めて学びました。将来の社会を守るためにも、本日学んだ事を応用していこうと考えております。ありがとうございました。
- ・充分有意義なものでした。ありがとうございました。
- ・コロナ禍のだからこそ行なっているSDGsへのJALの取り組みなどがあつたら知りたいと感じた。

※原文ママ

【アンケート報告】投資でコロナ対策！？～第一生命のSDGs推進取組み～

イベント名：投資でコロナ対策！？～第一生命のSDGs推進取組み～

日時：2022年2月25日（金）13：00～14：30

場所：遠隔（Zoom）によるオンライン開催

参加人数：17名

アンケート：11件（回収率：64.7%）

<Q1>

●本日のイベントにどのくらい満足していますか？

大変満足	9
満足	1
普通	1
少し不満	0
不満	0

<Q2>

●今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。（任意）

- ・貴社が具体的にどのようにSDGsに取り組んでいらっしゃるかを理解することができ、大変勉強になりました。現在、就職活動中で貴社を希望しているので、説明会だけではなく、このような会で更に貴社について知ることができ、参加させていただけて嬉しく思いました。
- ・とても分かりやすく、聞き取りやすい声で最後まで集中して講演を見ることが出来ました。言葉だけ知っていても、中身を知らないものが多かったので、調べたり興味を持ったりするきっかけを得ることができて良かったです。
- ・第一生命の保険会社としての事業は知っていたが、投融資などの事業は全く知らなかった。社会がよりよくなりための活動にはどのようなものがあるかという知識が広がった。また、就業時間や女性の身体についてのセミナーなど、働く環境整備が整っていることを感じた。自分はこれから就活があるので、このような働く環境をどのように整っているかどうかということも意識したいと思った。
- ・SDGsについて今更詳しく聞くのが恥ずかしいという面があったので、このイベントに参加させていただきました。第一生命のことだけでなく、SDGsの根本的な部分を知ることができたのでとても勉強になりました。
- ・常に講義形式ではなく、チャット機能を活用したり、グループディスカッションを設けるなどして参加型のイベントであればより講義内容を深く知ることができたのかなと思った。
- ・SDGsに関して企業や個人など様々な視点からどのように取り組まれているのかを知ることができ、さらに保険会社のシステムも知ることができてとても充実した一時間半になりました。
- ・企業様がどんなsdgsの活動をしているか聞く機会がないためとてもためになりました。私はこれまでマイバッグ持参などしか行えていなかったのですが積極的にsdgsの活動を行っている企業様のイベントなどに参加することもsdgsの活動に繋がるのではないかと思います。またsdgsは地球や世界のためだけでなく企業にも経営やビジネスチャンスの面から活用できることを知ることができました。本当に貴重なお話ありがとうございました。

※原文ママ

<Q3>

- 今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	10
学内掲示板	2
その他	1

<Q4>

- 今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。（任意）

- ・SDGs関連のイベントには積極的に参加したい。
- ・SDGsに関するイベント・企業の業務内容などを知れるイベント
- ・企業セミナーに参加したいです！

※原文ママ

【アンケート報告】2022年3月12日 <2021年度開設キット完成記念>

～赤ちゃんとお母さんを守る「妊産婦・乳児救護所」ってどんなところ？
大学・学生とともに準備していこう～

イベント名：第2回みんなの避難所教室 <2021年度開設キット完成記念>

～赤ちゃんとお母さんを守る「妊産婦・乳児救護所」ってどんなところ？
大学・学生とともに準備していこう～

日時：2022年3月12日（土）10：30～11：30

場所：遠隔（Zoom）によるオンライン開催

参加人数：29名（講師・司会・ファシリテーター除く）

アンケート：17件（回収率：58.6%）

<Q1>

- 救護所での生活を具体的にイメージできるようになりましたか

そう思う	5
ややそう思う	10
どちらともいえない	1
あまりそう思わない	1
そう思わない	0

<Q2>

- 家族用に何日分の水を備蓄していますか（おとな1人1日3リットル）

ない	3
1日	3
2日	0
3日	7
4日	1
5日	1
6日	0
7日	2
8日以上	0

<Q3>

●救護所についての不安は解消されましたか

そう思う	3
ややそう思う	9
どちらともいえない	2
あまりそう思わない	2
そう思わない	1

<Q4>

●救護所についての不安や、わからないことは何ですか

- ・助産師さんやお医者さんがどれくらいの頻度で回るのか気になりました。
- ・プライバシーの確保、備蓄品の量（地震後の地上輸送は困難な可能性有）、衛生環境、治安
- ・なるべく家などから持ってきた方がいいもの、邪魔になるから持ってきてほしくないものなどがあれば知らせてほしい
- ・清掃など施設の衛生管理はどうか、火災が起きた場合はどう行動するのか
- ・住居から距離が遠く、到着する前に定員に達してしまうのではないかと。特に、妊婦の場合は移動に時間がかかるため、殆ど利用出来ないと感じた。
- ・非常用お薬の備蓄について、てんかんもちのこ等。シングルファザーの方への対応を別部屋で行えないのか。実際家族で避難したいと思うため、もう少し対応策が必要であると思う。
- ・事前に受け入れ可能か（空きがあるか）何かで分かると良いと思います。実際に行ったら人員オーバーで入れないということも想定されるのではないかと思います。
- ・男女が同じ空間で生活することへの不安。以前垣谷美雨さんの「女たちの避難所」を読んだ際、避難所での性被害などの問題を知った。

※原文ママ

<Q5>

●救護所において避難者同士で助け合う必要性を感じましたか

そう思う	13
ややそう思う	4
どちらともいえない	0
あまりそう思わない	0
そう思わない	0

<Q6>

●みなさんとの意見交換はいかがでしたか

- ・子を持つ親としての皆さまの率直な意見をうかがえて勉強になりました。
- ・時間が短かった
- ・様々な方が関心を持ち、取り組みに関わっていることがわかり非常に良かった。
- ・意見交換の場があってとてもよかった。司会者の仕切りがうまくて、発言しやすかった。
- ・利用することになる方の意見が聞けて良かった
- ・自分では分からない視点に気づけたと思います。勉強になりました。
- ・参加できませんでした。
- ・オンライン開催で一人ひとりが発言できる機会があり、よかったと思う。

- ・実際のご家族の率直な意見がきけた
- ・時間の都合で、参加できませんでした。
- ・途中でズームの調子が悪くなり参加できませんでした。

※原文ママ

<Q7>

- 救護所開設後すぐにどんな問題が起こるか、具体的に思い浮かぶようになりましたか

思い浮かばない	1
断片的に思い浮かぶ	11
おおよそ思い浮かぶ	4
くわしく思い浮かぶ	1

<Q8>

- 今日の感想や気づいたことをご記入ください

- ・このような場所があるということで、少しイメージわきました。自分が住んでいる地域だと、跡見学園女子大学さんになるため、そちらがどのようなになっているか知りたいと思いました。
- ・ありがとうございました。また機会あれば参加させていただきます。
- ・災害発生から避難所の開設までが最も混乱する期間であると思うため、開設キットがとても画期的でよいと思った。
- ・第一義的にこれから産む人のための医療的な観点で救護所が開設されるということが、もっと知られるとよいと感じた。(参加者も、0歳児の保護者が多く、妊産婦がすくなかった)
「男性も入れるように」との意見があったけど、妊産婦の安全な出産のための枠を確保することが最優先だと思う。そして今の日本のジェンダーギャップ(男性からの性暴力やDV含む)状況では、男性がいると来づらくなる女性は少なくないと思うので、まだ女性と子どもだけでいいと思う。ただ、シングルファザー対応は別途必要だと感じた。気軽に参加できそうな案内だったので、ふらりと参加したけど、とても勉強になった
- ・第一受付からの流れ、物資の保管場所、救護所の開設、運営担当者の役割分担、外部との連絡など、わからないことばかりである。現場の確認または訓練をしておくといいのかと思った。
- ・妊産婦さんのことも配慮しながら、パートナーの方のことも対応していかないといけないのかなと思いました。また、実際の災害時にボランティア学生全員が大学にいることはないの、学生全体が救護所の存在とどう対応すれば良いのかという情報を共有していた方が良いのかなと感じました。
- ・途中までしか参加できず、残念でしたそれでも、大学や先生方の救護所に対する熱意が感じられました。
- ・思ったよりも避難所に備蓄がないと理解したので、自宅の備蓄を増やす必要性を感じた。
- ・かなり勉強になった。常に防災備蓄について、頼るばかりではなく自分たちで用意しておかなくてはならないと思った
- ・避難所の詳細が分かって、0歳児のお母さんたちに安心してご案内していこうと思います。ありがとうございました。
- ・避難所を開く立場からの視点を知ることができ、とても有意義な時間だった。

※原文ママ

<Q9>

●あなたについてお答えください：性別

女性	13
男性	4

<Q10>

●あなたについてお答えください：年代

10代	2
20代	4
30代	5
40代	3
50代	1
60代以上	2

<Q11>

●女性の場合の属性（「その他」は具体的にお願いします）

妊婦	0
0歳児のお母さん	6
1～5歳児のお母さん	0
大学生	6
その他	2

その他…大学職員、子育て支援職をしている保育士

<Q12>

●男性の場合の属性（「その他」は具体的にお願いします）

妊婦の夫	0
0歳児のお父さん	2
1～5歳児のお父さん	0
大学生	0
その他	2

その他…大学教員、区役所職員

<Q13>

●文京区民ですか

はい	7
いいえ	10

<Q14>

●今回のイベントをどこで知りましたか？

本学ホームページ	7
本センターTwitter	0
文京区メーリングリスト	8
その他	2

その他…災害時妊産婦・救護所ボランティアに参加した際に先生方からの連絡、どっとフミコム

<Q15>

●社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・男性の育休取得を進める企画。男性の長時間労働を是正する企画！ 職場で看護休暇・介護休暇を取りやすくするために、住民／区民個人ではなく、企業にはたらきかける企画
- ・男女平等参画、人権
- ・今回は大学側からの説明だったが、区としてもどのように考えているのか説明を伺う機会があるとよいと感じた。特に、施設の場所の偏りや、収容人数が文京区の子どもの数を踏まえたときに妥当と感じているのかなど。

以上

社会連携活動支援助成

家政学部住居学科教授 薬袋 奈美子

学生の自発的な社会連携活動に、助成金を出すという取り組みを2021年度より始めました。本学の教育理念として大切にされてきた三綱領には「自発創生」という言葉があります。自らの意志で何かを始められる人を育てて、社会を良くしてほしいという創立者の考えが現れている言葉ですが、そのような気持ちを積極的に応援しようという取り組みです。

社会連携活動に取り組む学生個人や団体に、10万円を上限とした活動資金を助成するものです。制度立ち上げ時の2021年度は、10月に募集を行い、実質12月から2月という非常に短い活動期間の募集となりましたが、7団体からの応募がありました。社会連携室のスタッフのアドバイスや、推薦して下さった教員の応援を得ながら、各グループとも試行錯誤はあったものの充実した活動をしました。

初年度ということで、運営側も色々と新たな検討事項に向き合いながら、時には学生と多くの相談を重ねながらの活動でした。最終報告会では、本学の教育の裾野の広さを改めて感じる活動報告を聞くことができました。

その一例を挙げると、家政学研究科住居学専攻で建築史の研究室に在籍する大学院生が中心となって、「アフガニスタンの歴史や文化の重要性に関する周知啓発」という活動を行い、アフガニスタンから流出した仏仏頭を集めている方のイベントと連携をして、独自に仏頭のデッサン会を開催しました。コロナ禍の中でも、多くの来場者があり、アフガニスタンの政情不安の中で流出してしまう文化財を守ることに、思いを馳せる時間が持たれました。

また、「探究クラブ ～みんなで一緒にサイエンス～」という理学部物質生物科学科の学生による活動では、子どもたちの理科離れ対応のために、大学で学んだことを楽しく、わかりやすく、安全に伝える企画を考えました。コロナ禍ということもあり自宅からオンライン参加をしてもらえるようにするための工夫を重ね、「ラーニングコモンズかえで」で連日準備を行い、参加者全員が満足するという活動となりました。

最後まで活動を遂行できたのは5団体でした。学生への周知、活動助成金の利用方法等、改善すべき事柄はありますが、学生の社会連携活動を支援することで、学びの発展に繋がることを期待します。また、社会連携教育センター発足前には、学生支援を専門的に行う非常勤スタッフ（コンシェルジュ）の雇用の検討もありましたが、実現に至りませんでした。そのため活動の推進にあたっては、社会連携室のスタッフの皆さんの丁寧な学生サポートがあったことも書き添えて、記録とさせていただきます。



2021年度社会連携活動支援助成 スケジュール・テーマ一覧

社会連携室

【2021年度スケジュール】

募集期間：2021年11月1日（月）～11月10日（水）17：00

（書類選考→面接選考（オンライン）→採用発表）

活動説明会：2021年11月30日（火）12：40～13：10（オンライン）

2021年12月3日（金）12：40～13：10（オンライン）

活動報告会：2022年3月25日（金）13：00～14：10（オンライン）

【採択テーマ一覧】

○アフガニスタンの歴史や文化の重要性に関する周知啓発

○日本女子大学付近の飲食店と連携し地域の活性化を行う

○学内キャンパスの成り立ちおよび歴史を知ってもらおう

○探究クラブ～みんなで一緒にサイエンス～

○日本女子大学食育ボランティアグループ（公認同好会有志）による地域食育・公衆栄養活動

アフガニスタンの歴史や文化の重要性に関する周知啓発

申請ナンバー：01

松山奈穂 豊田円 栗原優季 大坪真子

私たちは文化財建造物の保存や再生を大きなテーマとして日々活動している。現在の日本において文化財を保護しその価値を継承していくことに対して大きな障壁はなく、文化財は国の共有財産という認識があるのではないだろうか。幸か不幸かこうした状況は、文化財をなぜ残さなければならないのか、どのような意義があるのかを考える機会を希薄にしているとも言える。一方アフガニスタンの不安定な社会情勢下では、遺跡や文化財の価値が精査される前に政治的意向で破壊される危機と直面している。国が育んだ歴史や文化の重要性を今一度考えてみるとともに、いまアフガニスタンで何が起きているのかを認識して頂く契機づくりを活動の目標とし、2つのイベントを多分野にわたる専門家との協働で企画した。その中でも私たちは住居学科で培ってきたグラフィカルなプレゼンテーションスキルや空間デザインスキルを活用し、ポスターやパンフレットの作成、会場レイアウトなどの役割を担った。

2022年1月15日に「アフガニスタン仏頭のデッサン会」を、3月19・20日に「アフガニスタン出土の仏頭デッサン展覧会」を、いずれも東京都荒川区の施設「ムーブ町屋」にて開催した。デッサン会は専門家が保護したアフガニスタン出土の仏頭4体を対象として、来場者にデッサンを楽しんで頂くイベントであり、約60名の方にご参加頂いた。デッサンの際に必要な不可欠である対象の精緻な観察過程は、参加者の自発的な気づきや疑問を引き出すことに非常に効果があった。例えば仏頭の色や質感、日本の仏像との共通点、仏像の頭だけが保護されている歴史的な背景などへの声が寄せられた。展覧会では、先のデッサン会や絵画教室で制作されたデッサン作品の展示、考古学・文化財保存学などの専門家が行った仏頭の理化学分析の結果をまとめたポスターの展示など、関連する様々な展示を行った。2日で約150名の幅広い年齢層の方にご参加頂いた。展示していたポスターはやや専門性の高い内容であったが熟読する姿も多く見受けられ、研究内容への質問をきっかけに会話が弾む豊かな情報交換の場としても機能していた。

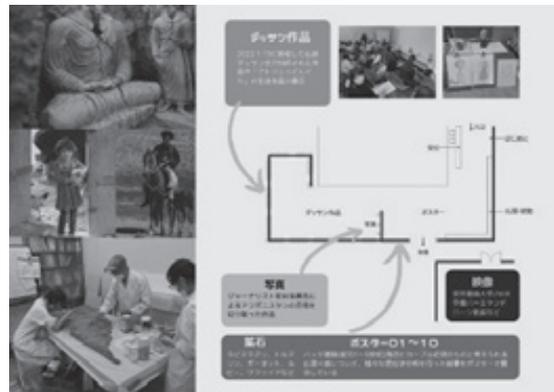
今後の活動として、展覧会の内容を全国的に小規模で展開することや、アフガニスタンの状況が落ち着きを取り戻した際に、仏頭やデッサン作品をアフガニスタン国立博物館へ寄贈する計画がある。



ポスター一例



2022年1月15日に「アフガニスタン仏頭のデッサン会」の様子



三つ折りパンフレット（左：表、右：裏）



3月19・20日「アフガニスタン出土の仏頭デッサン展覧会」の様子

日本女子大学付近の飲食店と連携し地域の活性化を行う

申請ナンバー：04

池野佑夏 佐藤早優香 吉田梨恵 土屋穂菜美

【飲食店マップ作成の目的】

日本女子大学の学生が大学付近のお店を訪れることで地域の活性化及び、飲食店のお客さん増加に繋げる。日本女子大学の新生に大学付近の飲食店を知ってもらい利用してもらう。

【作成の経緯】

日本女子大学の付近には多くの飲食店があるものの、本学の学生などにはあまり知られていない。この活動を通して、より多くの学生に素敵な飲食店やこの地域の魅力を知ってもらいたい。

【飲食店マップ作成の計画】

	内容
1月	飲食店様への依頼・取材
2月	飲食店様への依頼・取材、協賛依頼 冊子の印刷完了
3月	学校に設置、在学生への飲食店マップ配布
4月～6月	新生や在学生に飲食店マップ配布

【作成までの流れ】

飲食店マップ作成のために次のような流れでお店とのやり取りなどを行った。お店へのアポイント獲得、店舗にて企画書説明、撮影・取材、紹介ページ作成、お店との最終確認、印刷である。

お店の方に企画の内容を説明する機会をいただけるように、アポイント獲得では、次のことを行った。事前に台本を作成し、お店の方にお電話をする。お電話の際には、お店のピーク時を避けて連絡をする。また、お電話した際にお店が忙しかった場合、再度電話可能な時間をお聞きするということだ。この方法により電話をかけた8割以上のお店に訪問許可をいただくことが出来た。

店舗における企画書説明によってお店の方に賛同いただけるように工夫した点は2つある。事前に企画書の内容を社会連携室の方に確認していただく、企画書の説明の練習を行うということだ。事前の準備のおかげもあり説明に伺ったすべてのお店から冊子への掲載の許可をいただくことが出来た。

撮影・取材においては料理の魅力が伝わるよう、美しく美味しそうな写真が撮れるよう工夫を凝らした。機材には一眼レフを使用し、取材前にはカメラの練習を何度も行った。また撮影当日には、商品を光の当たりやすいところで撮影したり、様々な角度やパターンで撮影したりするなど料理の魅力が伝わる撮影を心掛けた。

紹介ページ作成に当たっては、様々なカフェ雑誌を研究し、見やすさやデザインにこだわった。デザインもすべて自分たちで作成し、シンプルかつおしゃれなデザインに仕上がった。

その結果1000冊以上の冊子が学生の手に入った。

キャンパスの魅力を地域に知ってもらおう

申請ナンバー：05

中山由梨亜 山村莉歩 岩上綾夏 梶座凜
小山桜馨 高村結加 中村真沙美

本学創立120周年を迎えて目白キャンパスが新たにグランドオープンしたことをきっかけに、地域に開いたキャンパスにしていきたい、地域にキャンパスの魅力をより広く知っていただきたいという思いから、本活動では学生によるキャンパス案内企画を立ち上げた。学生が目線の方に向けてキャンパスを案内する機会は少なく、本活動では学生目線で魅力を伝えることに重きを置いて活動を開始した。

当初は、キャンパス内に地域の人々を誘致し、住居学科の学生による建物の案内やキャンパスの設計に携われた先生による講演会の実施、地域の人々と学生の交流の場を作ることを計画していた。しかし、新型コロナウイルスの感染状況により、直接地域の人々をキャンパスに招くことが難しいと判断し、キャンパスの魅力を学生目線で発信する8ページの冊子の作成に計画を変更することとなった。

冊子の作成にあたり、新図書館、青蘭館、百二十年館、杏彩館の設計を担当した本学の卒業生でもある妹島和世客員教授へのインタビューと住居学科学生へのアンケートを行った。妹島客員教授へのインタビューでは、設計において地域に開くという点で工夫された点や、地域にとっての今後のキャンパスの役割などを伺った。学生へのアンケートでは、キャンパスの中で好きな場所や授業以外でよく使う場所などについて、50名の回答を得た。

冊子のタイトルは『日本女子大学住居学科学生目線の新目白キャンパス図鑑』とし、前述したインタビュー内容とアンケート結果を掲載したほか、キャンパスマップ、新図書館、百二十年館、杏彩館、樟溪館を学生目線で解説し、キャンパスの写真も自分たちで撮影したものを使用した。キャンパスの建物を紹介するにあたり、自分たちにとっても改めて学内の建物の好きな部分や思い出などを語る良い機会となった。作成した冊子は、今後学内のラーニング・コモンズや成瀬記念館、地域の各施設に置いてもらえるように交渉する予定である。

本活動を通して、社会に向けて情報を発信する際には慎重に確認を重ねる必要があること、スケジュール管理の重要性を学んだ。周囲に力を借りて協力して行うことで、予定通りに進行しない時でも代替案を考え、柔軟に対応することができたと思う。

最後に、本活動において快くインタビューを引き受けてくださった妹島客員教授ならびに妹島和世建築設計事務所のスタッフの皆様、ご指導くださった薬袋先生、ご助力くださった社会連携室のスタッフの皆様に感謝申し上げます。

探究クラブ ～みんなで一緒にサイエンス～

申請ナンバー：06

理学部 化学生命科学科

中村百花 加藤桃子 上原由香 高林友紀菜 松原有里

<活動の概要>

理学部化学生命科学科の3年生5人のメンバーから成り立つグループで、小学生向けの理科実験教室を開催した。新型コロナウイルスの感染拡大の為、事前に応募フォームに記載された住所に実験キットを郵送し、オンラインでの開催とした。

実験内容は「光ファイバーのひみつ」として光回線の原理を学び、光ファイバーの性質を利用したインテリアを作製した。

<活動の目標>

①子どもたちに理科の魅力を存分に伝える。

理科離れが加速する現代において、理科の魅力を存分に伝える活動を行い、子どもたちの好奇心・探究心を育成することで、理科をより身近に感じてもらう。

②理科実験教室を通して地域の子どもたちとコミュニケーションをとり、大学をPRする。

自分が大学で学んだ知識を生かし、次の世代に伝える活動を行うことで、自らの学びを客観的に振り返る。

子どもたちの好奇心・探究心を育成し、理科の魅力を存分に伝えることを目標とした。

活動のタイトルとなっている「探究クラブ」は、子どもたちの「なぜ? どうして?」と思う気持ちを一緒に探究しようという思いを込めた。

また、私たちが大学で学んだ知識を生かして子どもたちに伝えることで、自らの学びを客観的に振り返り、大学や学科のPRになるよう工夫して計画を立てた。

<活動内容>

①チラシ作り

②SNSアカウントの開設(更新)

③実験キット作りと予備実験

作成したチラシは、豊明小学校や学童クラブ、本学の社会連携室前の掲示板、SNSにて周知した。また、新たにインスタグラムとツイッターのアカウントを開設し、作業状況やメンバーのプロフィールを公開した。



実験キットには光ファイバー・LEDライト・ストロー・黒の厚紙・電池を封入し、実験当日に使用するパワーポイントのレジュメ、参加賞として大学のロゴが入ったボールペンとファイル、実験手順などを示したワークシート、理科博士認定証も封入した。実際に送付した認定証にはそれぞれの名前を入れて、理科博士に認定した。



<当日の様子>



<評価点>

- ・キットを事前に郵送したことで、スムーズに実験を行うことができた。
- ・事前準備をしっかりと行ったため、満足度が高かった。

<改善点>

- ・参加者（小1～小5）の年齢が離れていて難易度が学年によって異なってしまったので、今後は小1～小3の低学年クラスと小4～小6の高学年クラスで実験の難易度を変える。
- ・チラシからイベントを知る人が多かったので、部数と掲示場所を増やし、SNS等を用いてさらに広い範囲に周知する。

<今後について>

評価点と改善点をふまえて、今後は他学年の理学部の学生にも探究クラブの活動を知ってもらい、定期行事にしたいと考える。

夏休みなどの長期休暇を利用して、子どもたちの自由研究としても取り組める内容を取り上げ、さらに活動の幅を広げたい。

<ご協力頂いた先生方>

理学部 化学生命科学科 阿部秀樹 先生
佐藤香枝 先生
山田陽子 先生



ご協力頂いた方々に心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

日本女子大学公認食育ボランティアグループによる 地域食育・公衆栄養活動

申請ナンバー：07

日本女子大学 食育ボランティアグループ
橋本明佳 石井佑果 鈴木知沙菜 町田心
青野陽菜子 高橋明花莉 長野絢子 森珠貴
大槻みのり 迫菜津子

私たちはこの活動を通して、地域住民のQOLの向上のために、大学生として地域の方々と連携して、食育・公衆栄養活動に取り組み、社会に貢献することを目指しています。

おもな活動内容は、以下の通りですが、今回の報告書では3月6日の「味噌づくり教室」について主にご報告いたします。

日程	内容	対象参加者	会場（※オンライン）
11/27	風土まるごと 手しごと講座 山の暮らしと赤かぶ	地域住民約15名 (学生1名)	ちんじゅの森※
12/18	やずびょんち。(子ども食堂)	渋谷区親子62名 (学生5名)	渋谷区教育会館
1/15~ 2/15	東京都食育フェア	都民の皆様(全員)	※
1/30	乾物は未来食 ~今日から始める干し野菜~	地域住民(学生7名)	ちんじゅの森※
3/6	AYAWEEK2022小児・ AYAがん支援味噌作り教室	子ども~大人19名 (学生3名)	ちんじゅの森※

▶実施形態

今回の食育活動は、コロナ禍のため、第4次食育推進基本計画の3つの重点事項の1つ、『「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進』に沿ってオンライン開催としました。

▶AYA WEEKとは

今回の味噌作りの活動は、AYA世代（15~39歳）がんの周知活動AYA WEEK 2022の一環として実施しました。（※AYA：Adolescent and Young Adult 思春期・若年成人）

AYA世代のがん患者は、小児がん経験者から中学生、社会人、子育て世代まで含まれます。自立を望み、食行動の選択もできますが、自制が難しく、周囲が支援しにくい年齢です。告知によるストレス、闘病の辛さ、将来への不安を抱えています。治療後も晩期合併症や再発など様々な課題に直面しています。しかし、認知度が低く、社会的な支援が必要です。今回の食育活動は、参加者の健康的な食生活の支援を目的に行いました。

▶事業内容

今回は、「味噌の知識を深めてもらう」ことを短期目標に味噌づくり教室を行いました。味噌に着目した理由は、身近な食材を自身で作ることを通して、健康的な食生活への意識を高めてもらうためです。石川県金沢市の株式会社ヤマト醤油味噌と企業連携をして、実施しました。

・日時：2022年3月6日 14:00~16:00

・対象：一般参加者（小児・AYAがん経験者含む）

- ・実施者：食育グループの学生
- ・中継場所：ちんじゅの森（参加者：ZOOM）
- ・連携機関：株式会社ヤマト醤油味噌（石川県・金沢市） NPO法人ちんじゅの森

▶ イベントの流れ

① 準備・手洗い

食育イベントに際しての基本となる手洗いをを行うように参加者に促しました。

② 学生発表

お味噌汁と乳がん予防の関連について過去の論文（国立がん研究センター報告より抜粋）を元に発表しました。

③ ヤマト醤油味噌 社長 山本晴一様の講話

発酵食品について、わかりやすく説明して頂きました。

④ 味噌作り

麴・塩・潰した大豆・種みそを混ぜて作りました。作り方に関しては、割愛します。混ぜる工程で時間が長くかかりましたが、とても楽しいテーマソングを流してくださり、参加者を飽きさせない工夫を行いました。



オンデマンド配信 <https://mcm-www.jwu.ac.jp/~suzukir/blog/index.php/aya-week-2022/>

▶ イベント後の反省・感想と今後の課題

事前の準備やオンラインでの実施については問題なく実施することができました。しかし、当日のイベント時間について、予定よりも30分長くなってしまい、時間管理が次回の課題であると感じました。

参加者の皆様から、アンケートでは、楽しかった、新たに知ることが多かった等の好意的な意見を沢山いただきましたが、イベント内容に関しての指摘もいただき、今後の参考になりました。

今回の反省を踏まえ、今後の課題としては、参加者を募る際は日程に余裕を持つこと、オンラインでも対応できるような計画を考えること、参加者に合わせた内容や時間配分かどうかを確認することがあげられました。また、親子参加者に対して、告知状況がわからない場合、「がん」という言葉を使うことが難しく、改めてAYA世代がん患者に対する配慮や接し方について考える機会となりました。大学生が主体的に、地域の方へ食の知識や情報提供をすることで、自分たち自身も学びを深めることや、配信する実践的能力を得ることができたと感じました。

この活動を通して学んだことを活かし、今後も繋がる支援ができるように精進してまいります。

JWUチームボランティアについて

社会連携室

2021年度は、コロナ禍で学外でのボランティア活動が制限される中、学内でできるボランティアの紹介イベント「学内でできるボランティアって??①・②」を4月23日（金）および27日（火）に開催した。

このイベントでは、文京区災害時妊産婦・乳幼児救護所ボランティアと、聴覚障害学生の支援のためのノートテイカーの紹介を行った。

1. ノートテイカーボランティアについて

5月20日（木）および6月17日（木）に筑波技術大学より講師を招き、Zoomを利用したノートテイカー養成講座を開催した。受講者数を30名に対し、受講予定数を大幅に超える申し込みがあった。このため、後期には10月7日（木）に同内容の講座を開催した。受講者数はそれぞれ第1回40名、第2回29名、第3回24名であった。

受講生のうち、希望者によるボランティアチームが発足し、9月の教特セミナーより聴覚障害学生への支援を開始した。

2021年度の聴覚障害学生への支援の状況としては、7科目について、のべ38名が参加した。

聴覚障害学生への支援は、卒業まで継続が必要であるため、今後は、ノートテイクの技術の向上支援や、ボランティアの継続募集等についてダイバーシティ推進室と連携した活動が必要である。

2. 文京区災害時妊産婦・乳幼児救護所ボランティアについて

6月11日（金）および6月15日（火）に住居学科平田京子教授による、キックオフミーティング「備蓄物資を見直す」を開催した。参加者はそれぞれ38名、25名であった。

このイベント参加者のうち、希望者によるボランティアチームが発足した。

7月29日（木）には、災害時に新泉山館の備蓄物資を取り出しやすい順に並べ替える作業を平田教授の指導の下、24名の学生と教職員で実施した。

また、2022年3月12日（土）開催の文京区在住者を対象とする避難所についてのイベント「みんなの避難所教室2021 年度開設キット完成記念 赤ちゃんとお母さんを守る「妊産婦・乳幼児救護所」ってどんなところ？ 大学・学生とともに準備していこう～」のために本学の妊産婦・乳幼児救護所の紹介動画を企画・制作した。イベント当日は、一般の参加者のためのZoomによる交流会の司会進行を担当した。

今後は、大学の防災計画との連携を含め、関係部署と調整のうえ、ボランティアチームの学生の継続的な活動を検討する。

地域連携報告

心理相談室について

人間社会学部心理学科准教授 堀江桂吾

心理相談室は、地域住民を対象とした心理相談サービスを提供し、地域住民のメンタルヘルス向上への貢献と、実践力のある臨床心理士・公認心理師の教育・養成を目指す2つの側面を備えている。2021年度は、西生田キャンパスからの移転に伴い5月から開室となった。新型コロナウイルス感染状況を鑑み、Zoomや電話による遠隔相談を併用しつつ、相談員・来談者の体調管理に加え、手洗いや換気、パーティションの使用等感染対策下での対面相談を実施してきた。

相談業務においては、申込み問合せ数は79件（うち受理面接48件）、総面接回数は592回であった（3月末時点）。バスの広告をきっかけとした問い合わせや、近隣の医療機関・教育機関からの紹介が続き、新規来談である受理面接数が大幅に増加した。

また、11月20日には日本女子大学人間社会学部心理学科主催・心理相談室共催セミナーを開催した。以前本学でも教鞭をとられていた生地新先生（北里大学大学院医療系研究科教授）をお招きし、「児童・思春期の心理療法」というテーマでご講演頂いた。感染状況を考慮しZoomで実施したところ、全国から210名の方々にご参加いただいた。

そして、大学院生及び卒業生の臨床実践及び研究成果の発表の場として、紀要第19巻を刊行した。同巻には、上記新型コロナウイルス対応の報告も収録している。

心理相談事業（心理相談室）

室長 心理学科 堀江桂吾

相談担当者 心理学科教授 青木みのり 塩崎尚美 川崎直樹

心理学科臨床専任助教 心理学科非常勤助手

人間社会研究科心理学専攻臨床心理学領域在学生 同研究生 嘱託相談員

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	3	42	52	53	44	48	63	58	50	56	53	70	592

（3月31日現在）

文京区妊産婦・乳児救護所について

家政学部住居学科教授 平 田 京 子

文京区との協定に基づき、災害時には、妊産婦・乳児救護所が日本女子大学新泉山館に開設される。その運営体制の確立や、物品の準備等を進めることが喫緊の課題となっている。避難者である0歳の赤ちゃんとお母さん、妊婦の方々（文京区の想定では収容人数妊婦80人、母子80組 合計240人）を守る体制を確立するため、本学では、次のような研究・授業と連動した事前準備型の活動に注力しており、教職協働・学生との協働体制の構築を試みている。

2021年度には、4つの社会連携活動を行った。

1. 研究と連動した事前準備型の活動

卒業論文「日本女子大学妊産婦・乳児救護所の開設計画—受付計画と備蓄物資の取り出しに着目した開設キットの開発—」（住居学科 岩元菜津子氏）では、事務局と打ち合わせを重ねながら、救護所の開設キットの改良を行った。これは文京区の開設キット作成と時期が一致したため、2020年度より2年間にわたる学生の研究成果が区のキットに盛り込まれた。また備蓄物資の一覧と収納状況図作成、開設時間の計測などを実施し、事務局に引き渡した。

2. 教職協働、学生との協働体制構築

1) 学生ボランティアと事務局、教員が協力し、在校生24名、教職員8名が参加して2021年7月29日（木）15:30~17:30 に備蓄倉庫での物資整理作業を実施した。備蓄倉庫からの物品取り出し、物資の量とラベルの確認、備蓄倉庫3室に用途ごとに収納という流れで行い、学生と教職員のパケツリレー形式で手渡しでの段ボール箱運搬を行った。物品の箱数が多く重量もあるため、かなりの重労働であったが、学内で行う学生ボランティア活動として、かなり関心をもってもらうことができた。



備蓄物資 運搬作業中



備蓄物資の収納状況
倉庫2の分娩用医療物品



備蓄物資整理作業後の様子
(物品の種類・数が色にて表示されている)

2) 社会連携授業での学生リーダー育成、授業での学生主体型グループ演習

社会連携授業（全学学生対象、2年次以上）「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト」

クト演習A」(担当：住居学科 平田京子)の授業では、学生リーダーとしてのスキルを育成するほか、グループ演習の形で救護所運営計画を立案、文京区や大学事務局の前で7月にプレゼンテーションを行い、指導を受けた。実際にアイデアを採用してもらえることにつながり、学生の満足度も高かった。

3. 自治体との連携

文京区防災課が救護所開設のための物資を購入・準備し、本学に納入している。これらの使用方法や不足する物資などについて、教職員からの意見、開設キットを作成した学生からの意見、授業で学生が提案した改善内容などをまとめ、文京区防災課ともシェアした。それらの連携により、物品の配備が進み、救護所の準備が一段階進んだ。

4. 実践的な訓練の導入

地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習Aの履修学生26名が、開設キットを用いた開設作業を2021年5月31日に行った。2020年度は文京区防災課と共に作業を行ったが、2021年度は事務局との共同が主体で、提案プレゼンテーションの方に防災課が参加した。学生が開設訓練を行い、キットの改善点、時間の計測、避難者の気持ちに寄り添う運営計画などを提案し、演習時にシェアした。これらの成果は授業のプレゼンテーションに反映した。大学事務局による本学職員・学生による実践型の訓練はまだ実施できていないため、2022年度に申し送りとなった。



2021年5月31日 クリプロ演習Aの開設実習、エアマットの組み立て



2021年5月31日 クリプロ演習Aの開設実習、避難者への案内用テープ貼り

文京区健康・体力増進事業について

家政学部児童学科

准教授 澤田 美砂子

准教授 杉山 哲司

文京区の委託事業である幼児の体力向上推進事業（本学との連携による幼児の運動遊び支援を行うことにより、幼児の運動意欲や体力の向上を図る）について、2021年度の委託内容は、（１）文京区立幼稚園２園へのプレイサポーター派遣の実施、（２）体力向上イベントの実施であり、下記にその活動詳細について報告する。

（１）文京区立幼稚園２園へのプレイサポーター派遣の実施について

モデル園となる幼稚園での運動支援を目的としたプレイサポーターとして、本学家政学部児童学科４年次の学生２名を選出し、2021年10月～12月にそれぞれ根津幼稚園と湯島幼稚園に派遣した。プレイサポーターは、各園において幼児の実態や対応を理解することを目的として計10時間の保育補助を行った後、各園の保育方針に沿って、好きな遊びの時間での運動遊び場面において遊びをさらに発展させるような援助や、一斉活動において新しい運動遊びを導入する際の運動支援等を、計10時間実施した。本学より杉山・澤田がプレイサポーターの派遣前指導や運動遊び支援の指導、文京区教育センターおよびモデル園との事前打ち合わせを行い、モデル園へ赴き綿密な連携を取りながら事業の推進をはかった。当初は1学期からの派遣が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となり派遣期間が短縮されたこともあり、十分な時間をかけた運動支援は叶わなかったものの、子どもたちだけでは運動遊びを発展させることが困難な場面では、担任教諭に確認しながら運動遊びの援助を行うなど、プレイサポーターとして幼児の運動の機会や意欲を向上させる重要な役割の一端を担うことができたと考えている。

（２）体力向上イベントの実施について

運動そのものの楽しさや面白さを感じ、日常の身体活動量を増やしたり運動意欲を高めたりすることを目的として、文京区在住の年長児（５歳児）および小学校１・２年生とその保護者を対象として、本学体育館において運動遊びのイベントを計画した。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年度の開催は見送られた。

2021年度文京区連携について

社会連携室

文京区より指定を受けている妊産婦・乳児救護所の運営について、JWU社会連携科目で開講されている「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習A」（住居学科平田教授担当）で取り上げ、学生・教職員、文京区が三位一体となり検討を行った。また、今年度の実施の健康・体力増進事業の推進について、児童学科協力のもと実施した。例年出展している文京博覧会はコロナウイルスの影響により中止となった。

・令和3年度 第1回 区内大学地域連携担当者会議

1. 日時 令和3年7月13日（火） 午前9時30分～午前10時30分
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 議題
 - ・区からの周知事項
 - ・大学からの周知事項
 - ・大学間における情報共有について
 - ・今年度の区内大学学長懇談会について
 - ・その他

・令和3年度 第2回 区内大学地域連携担当者会議

1. 日時 令和3年12月6日（月） 午前10時30分～午前11時30分
2. 場所 オンラインでの参加（ハイブリッド開催）
第1委員会室（文京区春日1-16-21 文京シビックセンター24階南側）
3. 議題
 - ・区からのお知らせ
 - ・大学からのお知らせ
 - ・大学間における情報共有について
 - ・今年度の区内大学学長懇談会について
 - ・大学と区の連携実績について
 - ・その他

・令和3年度 文京区内大学学長懇談会

1. 日時 令和4年1月24日（月） 午前10時30分から正午まで
2. 場所 文京シビックセンター24階 第1委員会室
3. 議題
 - （1）開会挨拶（文京区長）
 - （2）報告事項 大学学長講演会実績及び区内大学と区との連携実績
 - （3）懇談・意見交換
テーマ 『大学における温室効果ガス排出削減について』

令和3年度大学・地域連携事業

「生田でインバウンド～生田緑地の魅力発信」の取り組み

家政学部住居学科教授 薬袋 奈美子

日本女子大学が多摩区にキャンパスを新たに設けることを決めたのは1934年のこと。90年近く前のことです。今年区制50周年を迎えた「多摩区」が存在する前から根付いていたこととなります。第二次世界大戦中の1943年に国文学部、英文学部が移転し、その後目白に戻りましたが、高等学校は残りました。1979年には中学が西生田に、そして1990年には大学の人間社会学部が西生田に設けられ、多摩区とも深いかかわりが築き上げられるようになりました。人間社会学部は、2021年度から目白キャンパスに移転をしましたが、多摩区との繋がり、これからも新しい形で紡ぎ続けられることを期待しています。

2021年度の多摩区大学・地域連携事業は、人間社会学部文化学科の学生と、家政学部住居学科の学生の取り組みとなりました。生田緑地は小田急線を挟んで、西生田キャンパスと斜向かい合う自然と文化施設が豊かな緑地です。その魅力を海外の方に向けて発信するという取り組みは、工業の町川崎というイメージだけではなく、自然と文化が豊かな町川崎というイメージを定着させることにも繋がり、海外の方からのそういった評価は、地域の住民が自分たちの地域に改めて魅力と誇りを感じることとなります。

川崎市に暮らす外国人は、多い順に中国、韓国、フィリピン、ベトナムとなります。この中で、言葉の壁が特に大きいのはベトナム人です。この方々に生田緑地の魅力を知ってもらうことは、共生社会を築き上げるためにも、そしてインバウンドでより関心を高めてもらうためにも大事なことです。SNS発信を通じた魅力発信の取り組みを行いました。(文化学科学生担当)

更に、来てくださった方に生田緑地の博物館施設の展示を理解し、更には普段の生活にも生かしてもらうために、日本民家園内の古民家がかつて建っていた住環境を理解するためのワークシートを作成しました。特に災害への備えの工夫を意識したワークシートを作成しましたので、取り組み終わった方は、日本の伝統文化に秘められていた、災害への備えと、それに気が付いていた先人の知恵を知り、表面的な日本の文化だけではなく、深い理解に結びつくのではないかと期待されます。更には自らの住む場所の災害への備えの意識を高めてくれるのではないかと期待しています。災害は一人ひとりが自分の住む場所の特性を理解して、適切に早めの避難・備えをすることがとても大切です。日本人、そして日本に住む外国人の方にそんな意識を持ってもらえるよう工夫しました。(住居学科学生担当)

生田緑地を訪れ、そして訪問をきっかけに日本の深い理解を促す取り組みを、2学科の学生と指導教員とで行いました。コロナ禍が続き、予定通りの活動ができなかった面もありましたが、学生の学びが深まりました。



インスタ ikuryoku.jwu2022



民家園 ワークシート



多摩区での成果報告会の様子
(youtube 動画)

川崎市多摩区 3大学連携事業について

人間社会学部文化学科教授 中西裕二

2021年度はその前年に引き続き「生田でインバウンド」というテーマでこの事業を行った。2021年度は新型コロナウイルスの感染が少し収束するだろう、という見込みでこのテーマを立てた訳だが、感染拡大が引き続き続いたことで、十分な活動ができたとは正直言えない状況であった。だが、できる範囲でこの事業を進めた。

2021年度は、特定の国の人々を生田緑地に呼び込むため、ターゲットとする国を絞りSNS上でその国の言語で生田緑地をアピールするという計画を立て、その国をベトナムとした。ベトナムからは近年、日本への観光客や留学生、そして労働者が急増している国であり、担当する中西裕二が研究対象としている国だというのがその理由である。

当初は日本へのベトナム人留学生を集め、生田緑地でのモニターツアーを実施し、その活動をスマートフォンで写真に撮りInstagramにアップする、またそのコメントもベトナム語で書いてもらう、という企画を立てた。しかし新型コロナの感染拡大がなかなか収束しないこと、ベトナム人留学生がみな帰国してしまったことから計画の変更を余儀なくされた。そこで、中西ゼミの学生を中心に生田緑地に行ってもらい、そこで写真を撮りInstagramにコメント付きでアップし、そのコメントをベトナム語に翻訳するという作業を行った。Instagramの頁は昨年度のものからリニューアルし、併せてベトナム語による生田緑地へのアクセスガイドも作成し、Instagramにアップした。

2021年度川崎市多摩区との連携について

社会連携室

川崎市多摩区と明治大学・専修大学・本学の3大学は2005年より多摩区・3大学連携協定を締結しており、様々な取り組みを共催してきたが、本年度は新型コロナウイルス感染症まん延による行事の中止や、Zoomによる遠隔開催等、形態を変えての実施を余儀なくされた。昨年度に引き続き多摩区3大学コンサートもweb開催となった。

また、2021年度川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」に採択された。

- ・令和3年度 第1回 多摩区・3大学連携協議会
 1. 日時 令和3年4月28日（水） 15：30～16：35
 2. 場所 オンライン開催（Zoom）
 3. 議題
 - ・令和2年度大学・地域連携事業の報告について
 - ・令和3年度インターンシップについて
 - ・令和3年度大学生の地域参加促進事業の仕様について
 - ・令和4年度多摩区3大学コンサートの日程について

- ・令和3年度 第2回 多摩区・3大学連携協議会
 1. 日時 令和3年10月6日（水） 15:00～15：50
 2. 場所 オンライン開催（Zoom）
 3. 議題
 - ・後援名義使用承認申請について
 - ・令和3年度インターンシップ実施報告
 - ・第2回多摩区制50周年記念事業実行委員会について
 - ・多摩区制50周年記念冠事業への応募について
 - ・令和4年度大学・地域連携事業の募集について
 - ・令和3年度大学・地域連携事業中間報告について
 - ・多摩区3大学webコンサートについて
 - ・令和3年度スケジュールについて
 - ・各大学からの報告事項について

- ・令和3年度 第3回 多摩区・3大学連携協議会
 1. 日時 令和4年1月31日（月） 13：30～15：05
 2. 場所 オンライン開催（Zoom）
 3. 議題
 - ・第98回箱根駅伝出場応援の取組結果について
 - ・第3回多摩区制50周年事業記念事業実行委員会について
 - ・区政50周年記念誌の検討状況について
 - ・周年事業スケジュールについて
 - ・令和3年度大学・地域連携事業報告会について
 - ・令和4年度大学・地域連携事業について
 - ・令和4年度たまなび実施について
 - ・令和4年度生田緑地エントランススポット大学連携フィールドワーク共同事業委託の実施について

- ・生田緑地エントランススポットの広報パネルについて
- ・令和4年度のスケジュールについて
- ・令和5年度多摩区3大学コンサートの開催日について
- ・地域デザイン会議について
- ・各大学からの報告事項について

・令和3年度 第1回 川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会

1. 日時 令和3年8月24日（火）18:00～20:00
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 議題
 - ・川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組
 - ・地域包括ケアシステムに関する市内の取組状況報告
 - ・グループディスカッション「住まいと住まい方」

・令和3年度 第2回 川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会

1. 日時 令和4年2月14日（月）18:00～20:00
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 議題
 - ・川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組
 - ・地域包括ケアシステムに関する市内の活動紹介
 - ・グループディスカッション「多様な主体の活躍」

板橋区立中央図書館との連携事業「親子読み聞かせ講座」

家政学部児童学科教授 和田直人

2021年11月5日、板橋区立中央図書館に於いて、板橋区在住の3歳までのお子さんと保護の方々を対象に「親子読み聞かせ講座」を板橋区立中央図書館と日本女子大学家政学部児童学科の共同開催で実施しました。講座は2部構成で行い、1部は児童学科の和田直人教授が「だれでも作れる手作り絵本」をテーマに、絵本作家エリック・カールのコラージュ手法をわかりやすく解説し、誰でも簡単に作れる手作り絵本の魅力を紹介しました。2部では児童学科の根津知佳子教授が「子どもと楽しむ音遊び」をテーマに、児童学科3年生が音づくりをした、赤ちゃん絵本『もいもい』を取り上げ、絵本と音の関係について親子と一緒に音遊びを行いながら楽しく解説しました。解説の後には、児童学科4年生が卒業研究で制作した手作り絵本を用いて読み聞かせを行い、日頃、保育者養成コースで培った読み聞かせの技術を参加している親子の前で披露しました。また、学生と親子が一緒になって音遊びが行われ、参加した親子にとっては、たいへん楽しいひとときとなったようでした。参加学生にとっては、日頃の研究成果が地域社会で役立つというたいへん貴重な体験の場ともなり、地域社会と研究機関の連携によって得られる意義ある企画となりました。今後も板橋区との事業連携を深め、さまざまな取り組みにチャレンジしていきたいと考えています。



北海道日高管内7町・日高振興局・日高町村会との 包括連携について

社会連携室

本学と北海道日高振興局、及び当振興局内の7町（日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町）の包括連携協定については、2020年度に締結の予定であったが、コロナウィルス感染症のまん延の収束が見通せない中で、締結式は延期を重ねた。

また、協定締結に向けての打ち合わせのために、日高地区からの本学訪問も予定されていたが中止となり、すべてオンラインを利用した遠隔での会議に変更された。その後、締結式についてもZoomを利用したオンラインでの開催が決定され、数回にわたる事前接続テストを重ねた。

2021年8月2日（月）に日高管内7町の町長、日高振興局長、日高町村会と本学より今市理事長、篠原学長が画面越しではあったが、一堂に会し、包括連携協定締結式が開催された。

その後、包括連携協定による事業の検討を開始したが、日高地区からの本学訪問や、本学から日高地区訪問の計画は、中止となり、オンラインを利用した遠隔での開催となった。

このような状況下でも、JWU社会連携科目「地域・社会課題を学ぶ」では、日高地区の7町の担当者と学生がZoomを利用して、直接意見交換を行った。

また、研究面では、食物学科藤井恵子教授による、浦河町のなついちごの研究が本学特別重点化資金に採択され、研究面での連携が開始した。

日高管内7町と東京23区交流連携推進協議会 学校法人日本女子大学とのZoomによる打合せ会議

日時 2021年4月26日（月）15：30～16：30

- 議事
1. 協定締結式について
 2. 協定書締結後の具体的な相互協力及び連携協力内容

日時 2021年6月1日（火）10：00～11：00

- 議事
1. 協定締結の進め方について
 2. 日高管内各町担当者とのZoomによる会議開催について

日時 2021年6月15日（火）15：10～16：00

- 議事
1. 学校法人日本女子大学との相互協力に関する基本協定の締結方法について
 2. 具体的な相互協力内容について
 3. 今年度の事業計画について

日時 2021年8月20日（金）15：00～16：00

- 議事
1. 学校法人日本女子大学との相互協力に関する協定に基づく連携企画について
 2. 今年度後期授業における連携について
 3. 今後の具体的な相互協力内容について

日時 2022年1月28日（金）14：00～15：00

- 議事
1. 日高地域との相互協力による単位修得制度等の創設について
 2. 来年度事業計画案について

学校法人日本女子大学と
日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、
えりも町、日高町村会及び北海道日高振興局との
相互協力による協定締結式

次 第

日時：令和3年8月2日（月）13：30～

場所：日高振興局4階講堂

日本女子大学会議室

各町長（様似町を除く）執務室

1 開 式

2 出席者紹介

3 あいさつ

日高町村会長	様似町長	坂 下 一 幸
北海道日高振興局長		北 村 英 則
学校法人日本女子大学 理事長		今 市 涼 子
日本女子大学 学長		篠 原 聡 子

4 協定書締結

5 写真撮影

6 協定締結による取り組みについて

日本女子大学 人間社会学部長	中 西 裕 二
----------------	---------

7 質疑応答

8 閉 式

学校法人日本女子大学と
日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町、
日高町村会及び北海道日高振興局との相互協力による
協定締結式

(Zoomによる遠隔締結)

参加者名簿

日 時 令和3年8月2日(月)午後1時30分～
場 所 日高振興局4階講堂、各町長執務室、日本女子大学会議室

◎日本女子大学

所 属	職 名	氏 名	備 考
	理 事 長	今 市 涼 子	日本女子大学名誉教授
	常務理事・事務局長	熊 谷 賢 次	
	学 長	篠 原 聡 子	家政学部住居学科教授
	社会連携教育 センター担当理事	川 端 康 雄	文学部英文学科教授
	社会連携教育 センター所長	横 井 孝 志	家政学部被服学科教授
	人間社会学部長	中 西 裕 二	人間社会学部文化学科教授
	学 務 部 長	大 沼 義 彦	人間社会学部現代社会学科教授
	学務部事務部長	浅 田 誠	
(事務局)			
学務部社会連携室	課 長	三 石 裕 輔	
学務部社会連携室		上 村 真 司	
学務部社会連携室		山 崎 美 恵	

◎各町

町 名	職 名	氏 名	備 考
日 高 町	町 長	大 鷹 千 秋	
平 取 町	町 長	遠 藤 桂 一	
新 冠 町	町 長	鳴 海 修 司	
新ひだか町	町 長	大 野 克 之	
浦 河 町	町 長	池 田 拓	
様 似 町	町 長	坂 下 一 幸	日高町村会長
え り も 町	町 長	大 西 正 紀	

◎日高振興局

団 体 名	職 名	氏 名	備 考
日 高 振 興 局	局 長	北 村 英 則	

○事務局

団 体 名	職 名	氏 名	備 考
日 高 町 村 会	事 務 局 長	駒 澤 一 由	
日 高 振 興 局	地 域 政 策 課 主 幹	宮 本 哲 也	
日 高 振 興 局	地 域 政 策 課 地 域 政 策 係 長	土 田 直 樹	
日 高 振 興 局	地 域 政 策 課 地 域 政 策 係 主 事	村 岡 拓	

JWU 社会連携科目での北海道日高管内7町・ 日高振興局・日高町村会との連携

人間社会学部文化学科教授 中西裕二

本学と北海道日高振興局、及び当振興局内の7町（日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町）の包括連携協定が2021年8月2日に締結され、それに伴い、日高地方との官学連携がスタートした。2021年度は、この協定に基づきJWU地域連携科目「地域・社会課題を学ぶ」（後期、担当：中西裕二）を展開した。本授業では、授業中に日高地方の自治体関係者とオンラインでつなぎ、直接地域の諸課題について話をさせていただき、その課題解決策を学生が考え、最終的にオンラインで日高地方の方々にそのプレゼンをおこなう、というスタイルをとった。学生は課題解決策として「地域振興」と「観光」を軸とすることを決め、それを利用した地域の課題解決案をグループワークで作成し、最終的にPPTファイルにまとめ、日高地方の自治体関係者に対してオンラインでの報告会をおこなった。その内容は非常に好評であった。また、日高振興局と7町を貫く横串のような連携テーマが必要という意見もあり、その内容の詳細を詰めるべく、2022年3月16日～19日に、中西裕二と田井中慎（JWU社会連携科目の非常勤講師）で現地を訪れ、自治体関係者をはじめ7町の人々と意見交換をおこなった。その中で、2022年夏期に、学生と地域の方々との連携に関するワークショップを開催し、本学と地域の連携の具体的な方向性を検討することになった。

北海道浦河町特産品夏いちごを用いた地域連携の取り組み

家政学部食物学科教授 藤井 恵子

北海道日高町村会は本学が相互協力協定を締結している地域で、特産品には昆布、ミニトマト、夏いちごなどがある。いちごは日本で好まれる果物の一つであるが、消費動向は減少し続けており、使用用途はそれほど広がってはいない。いちごは主に冬から初夏にかけて栽培されているが、北海道浦河町や様似町では夏いちごが栽培され、流通している。そこで、北海道浦河町の特産品である夏いちごの品質特性および加工特性を明らかにし、夏いちごの消費拡大及び地域活性化の一助を担うことを目的とした。

試料はすずあかね（夏いちご）と、他品種のいちごとして、とちおとめ、やよいひめ、紅ほっぺ、あまおうを用いた。5種のいちごの加工特性として、真空調理により調製したコンポートを開発し、ユニバーサルデザインフードとしての可能性を検討した。具体的には、いちごのコンポートを真空調理と従来の湿式加熱及び誘電加熱（電子レンジ）により調製し、いちごの品種と加熱方法の違いによるいちごの加工特性を明らかにした。

生のすずあかねは糖度とpHが他のいちごに比べて低く、甘味が弱く酸味が強いことが示された。いちごの色については、明度はすずあかねととちおとめがやよいひめに比べて低値を示し、赤度はすずあかねが低値を示した。

また、すずあかねは脆く崩れやすく、軟らかいいちごであることが示された（図1）。

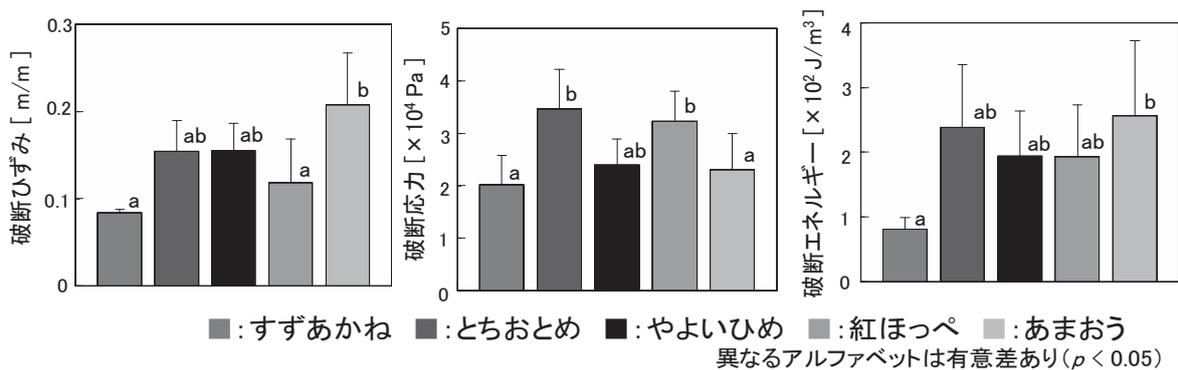


図1 生のいちごの破断特性

官能評価では、すずあかねは5種のいちごの中で最も甘くないと評価されたが、総合評価では、いずれの試料も有意差は認められなかった。

以上の結果より、すずあかねは糖度が低く、弾性率が高いが脆く壊れやすい特徴があった。味覚特性は個体差が大きく、すずあかねは他の品種と比べ顕著な差は認められなかった。

すずあかねの甘味が弱く、酸味が強い特徴を考慮して、加工法として、コンポートを選んだ。コンポートにすれば、甘味を付与でき、酸味は抑制でき、物性の脆く崩れやすい特徴も加熱により改善できると考えた。また、調理方法としては高齢者にも適したユニバーサルデザインフードとしての可能性を検討するため、真空調理を選択した。

いちごのコンポートの糖度は18.9~23.0%となり、試料間と加熱方法による違いは認められなかった。

図2にいちごのコンポートのテクスチャー特性の結果を示す。すずあかねの試料の硬さと凝集性は品種と加熱方法による差はみられなかったが、硬さは日本介護食品協議会が制定したユニバーサルデザインフードの物性規格において、「容易にかめる」の区分に該当した。付着性は真空調理ではすずあかねの試料は他の試料より高値を示したが、湿式加熱と電子レンジ加熱においては差が認められなかった。

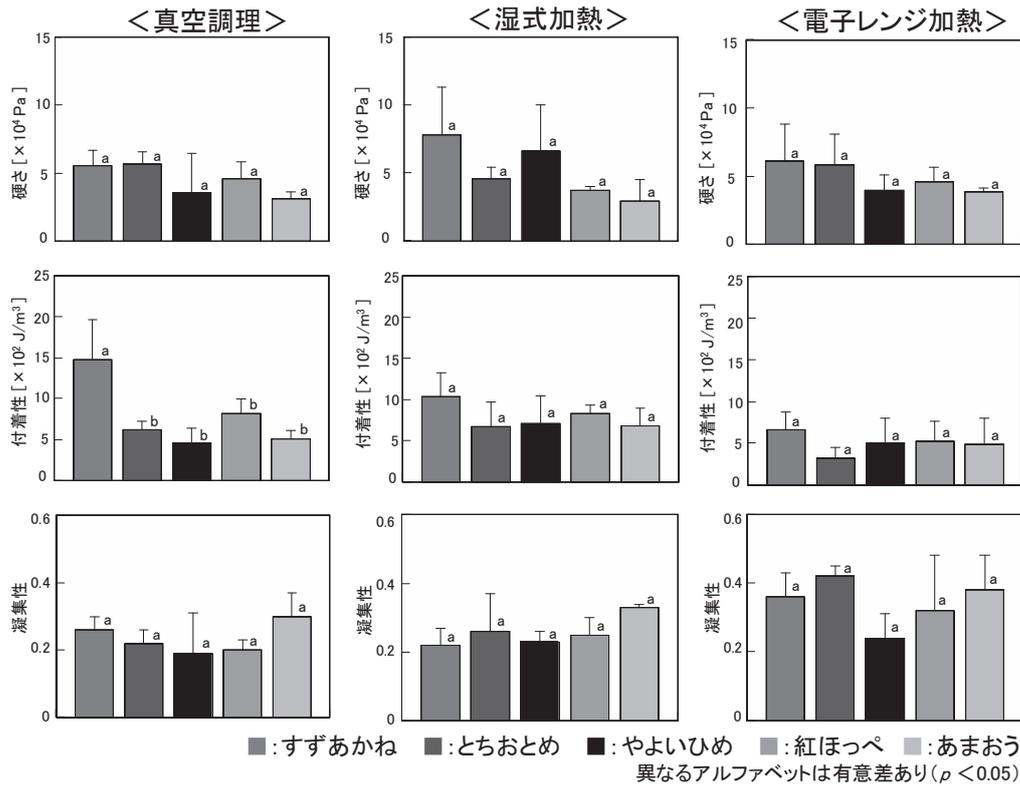


図2 いちごのコンポートのテクスチャー特性

真空調理したすずあかねのコンポートの味覚特性は、官能評価より色が薄く、香りは弱く味の濃さも薄いと評価され、甘味が弱く、酸味は強いと評価された。コンポートのあと味、硬さ、かみごたえ、残留感は試料間に差は認められず、いずれのコンポートも軟らかく残留感がないと評価された。

コンポートの総合評価に及ぼす要因について検討した結果、総合評価と相関が認められたのは、コンポートの色、コンポートの香り、味の濃さ、あと味であり、色が濃く、香り、味、あと味が強い方が好まれた。

以上の結果より、北海道浦河町の特産品である夏いちご（すずあかね）の特徴として、甘味が弱く、酸味が強く、物性としてかみ始めの抵抗力が大きい脆く崩れやすいいちごであることが明らかとなった。しかし、真空調理を用いてコンポートに加工すれば、軟らかく、残留感がなくなり、味と物性は改善され、ユニバーサルデザインフードとして利用できる可能性が示された。今後、この成果が夏いちごの消費拡大につながり、地域活性化の一助を担うことを期待したい。

産官学連携報告

AI・データサイエンス、ICTに関する社会連携活動

理学部数物情報科学科教授 長谷川 治 久

近年、データサイエンスや人工知能（AI）が脚光を浴び、データ分析や知的作業の自動化、効率化が進んでいる。また、ICT技術の重要性は、新型コロナウイルスの流行とその対策において強く認識され、情報科学、情報通信技術を社会の基盤として活用しようとする動きが一層盛んになっている。このような変化にあって、大学もICTを提供する産業界と連携しながら、今後の社会で活躍できる学生の育成と社会への貢献を強化していく必要がある。

本学では、今年度のキャンパス統合に合わせて、情報科学に関する教育の最新化を進めた。あわせて学内認定制度であるAI・データサイエンス・ICT教育認定プログラムが新たに設置された。このプログラムでは、規定の条件を満たすように単位を取得すると、学生は修了証を受けることができる。その条件には、基礎科目情報処理の科目とともに社会連携科目も含まれる。具体的には、「社会におけるICT、データサイエンス活用A」、「社会におけるICT、データサイエンス活用B」、「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習C」（以下それぞれ、「活用A」、「活用B」、「クリプロC」）の3科目である。これらの科目では、社会においてAIやデータサイエンス、ICTを良く活かすことを、企業などと連携しながら実践的に学ぶ。開講は翌年度であるため、今年度は開講に向けた準備を行った。「活用A」では、株式会社ラック、NTTアドバンステクノロジー株式会社と連携した授業を行う予定としている。ラック社とは2020年度に活用能力育成について協力するための覚書を交わしており、それに基づいた活動と位置付けられる。「活用B」では、富士通クラウドテクノロジーズ社と連携し、同社のモバイルアプリケーションの開発基盤を活用した授業を行うこととしている。今年度は同社からの技術的なサポートを受けて授業コンテンツの事前準備を行った。「クリプロC」では、地理情報システム（GIS）から得られるデータを活用しながら地域について考える内容を計画している。これらの科目は、正課におけるAI、データサイエンス、ICTに関する産学連携の軸となるものである。来年度の円滑な開講に向けて、準備を完了することができた。

GIS Geographic Information System

日本総合住生活株式会社との産学連携について

家政学部住居学科教授 定行 まり子
 学術研究員 古賀 繭子

本学と日本総合住生活株式会社（以下「JS」という。）は、2020年8月13日（木）に産学連携による寄附授業の協定について締結式を行い、JSの実務としての取組み・実践フィールドと、本学の専門的、学術的な知見や学生の柔軟な発想・探求心との協働を通して、実務と学術・教育の新たな社会連携プログラムを創設し、産学連携による社会的課題を解決することを目指して、寄附授業が設置された。2021年度は前期に「JWUキャリア科目・JWU社会連携科目」の「社会連携科目」の中に位置づけられた寄附授業を実施し、後期には学部学生及び修士学生を対象とした「卒論・修論賞」を開催した。

1 寄附授業 －JS寄附講座 住まい・団地・まちづくりフィールドスタディ

2021年度より開設された寄附授業は「JS寄附講座 住まい・団地・まちづくりフィールドスタディ」と題し、授業を通じて、学生と企業が様々な社会的課題を効果的に解決すべく授業が展開された。

授業は、団地の現状や団地が抱える様々な課題とこれに対する対応先等を把握するために、関係者等からの特別講義や団地見学を実施した上、2021年度のメインテーマを「多文化共生」と設定し、このテーマに適した団地への見学及び、団地における課題解決・提案側ワークショップを実施した。

表 2021年度 寄附授業の概要

回	内容
1	ガイダンス 日本総合住生活株式会社（JS）の紹介
2	住宅団地とは ヌーヴェル赤羽台/赤羽台団地 オンライン見学
3	グループワーク1 ＜団地に対する印象を共有するグループディスカッション＞
4	団地に関する著名人・企業等による講義① ＜団地の歴史＞ 井関 和朗氏（団地研究所代表、元UR職員）
5	団地に関する著名人・企業等による講義② ＜子どもと団地＞ 横田 綾子氏（株）コミュニティハウス代表
6	団地に関する著名人・企業等による講義③ ＜団地再生＞ 山田 正司氏（タウンハウス諏訪 設計者・居住者 多摩ニュータウン街区整備指針等作成） 戸辺 文博氏（多摩ニュータウン・地域専門家まちづくり専門家会議 理事長）
7	団地に関する著名人・企業等による講義④ ＜団地の利活用＞ 石垣 曜子氏（日本総合住生活株式会社）
8	団地に関する著名人・企業等による講義⑤ ＜高齢化と団地＞ 大倉 公子氏（日本総合住生活株式会社 生活支援アドバイザー相談員） 大塚 順子氏（住居学科 助教）
9	団地に関する著名人・企業等による講義⑥ ＜団地と多文化共生＞ 大島 隆氏（朝日新聞社 ワシントン特派員・「芝園団地に住んでいます」著者）
10	団地見学 ①大島六丁目団地 ②川口芝園団地
11 ～ 14	見学団地の実態と問題の把握、解決策提案のワークショップ ・第11回～第13回：グループごとのワークショップ ・第14回は提案のプレゼンテーションと講評

2 卒論・修論賞 – J S「住まい・団地・まちづくり」論文・制作賞

本学学生の優れた研究成果を褒賞することにより、創造性及び自主性を備えた人材の育成を図ることを目的にJ S「住まい・団地・まちづくり」論文・制作賞を開催した。応募資格は、卒業論文または卒業制作に着手している学生および修士論文または修士制作に着手している学生とし、テーマについても、住まい、団地、まちづくり、いずれかに関わる研究・制作と、住居・建築学はもとより、文学、社会学、福祉学等、広く多様な分野からの論文を募集した。

結果、20名からの応募があり、J Sより、石渡 廣一社長をはじめ、寄附授業担当の3名の社員様、日本女子大学からは今市 涼子理事長、篠原 聡子 学長と寄附授業、院授業担当の定行、学部授業担当の古賀の計8名で審査を担当し、J S社長賞、J WU理事長賞、J WU学長賞の3賞をはじめ、J S特別賞、卒論優秀賞、卒制優秀賞、修制優秀賞、奨励賞を決定した。2022年3月3日には表彰式が対面・オンライン同時開催し、J S社長賞、J WU理事長賞、J WU学長賞の3賞のプレゼンテーションが行われた。学生の、固定概念や常識にとらわれない自由な発想による住まい・団地・まちづくりに対する提案は、実際にフィールドを持つJ Sの社会的課題を解決する糸口となることが期待される。



JS石渡社長



篠原学長

2021年度株式会社読売広告社との連携

人間社会学部文化学科教授 中西裕二

キャリア教育に関する読売広告社との連携協定に基づく寄附講座で、社会連携科目ともなっている「課題解決型ワークショップを用いた企画開発」（前期、担当は中西裕二、榎本元（読売広告社、非常勤））を行った。授業では、参加企業から自社の課題解決すべき問題を出してもらい、履修学生がワークショップ形式でのグループワークでその解決案を作っていくというものであった。本年度の参加企業は㈱リコーの、スマートフォンのアプリ開発セクションだった。授業では、ワークショップとはどのようなスタイルの学びなのか、から入り、㈱リコーの概要、リコーのスマートフォンアプリの紹介から始まり、学生・教員は実際にリコーのスマートフォンアプリ「チーム手帳」を各自のスマートフォンにインストールし、それを使用した。そして、どのような「チーム」（＝グループ）にどのような課題があるかをグループで議論し、その課題解決のために「チーム手帳」に何ができるかを議論し、その形を各グループで最終的に報告した。病院や動物病院において病院とクライアントをつなぐアプリ、生理用品が無いときにそれをシェアするアプリ、といった多様な解決案が提出され、㈱リコーの参加者も驚くほどの案であった。

JWU子育てサイエンス・ラボ／子育てサイエンス・カフェ

「JWU 子育てサイエンス・ラボ」活動報告

人間社会学部心理学科准教授 麦谷綾子

創立120周年にあたる2021年、総合大学としての本学の学際性を生かし、誰もが生活しやすい社会の創出に貢献できる場を目指して、「JWU 子育てサイエンス・ラボ」が社会連携教育センター内に設置された。この取り組みでは、子育てに関連する種々の研究とその交流のための豊かな土壌を学内に作り出し、その成果を地域や社会に向けて迅速に発信・還元することを目指している。こうした活動理念を背景に、子育てに関連した研究を行う教員が自身の活動や知見を学内外に発信・交流する場として、今年度は計6回の「子育てサイエンス・カフェ」を開催した（下表参照）。2021年度は感染状況下であったことを踏まえてすべてオンラインでの開催となったが、どの回でも本学の学生を含めて学内外から数十名の参加者があり、活発な意見交換が行われた。

ラボでは現在、社会連携教育センターの構成員とともに運営にあたる「コア・メンバー」、研究の発表・交流を積極的に行う「ラボ・メンバー」、情報を受け取りながら緩く学内でのつながりを持つ「ネットワーク・メンバー」の3種の学内メンバーの分類を設けている。さらに学外の方に向けて、ラボが発信する子育て関連情報を受け取る「子育て情報会員」、学内の研究活動への協力が可能な親子を対象とした「ラボ協力会員」の2種類のメンバーシップを設け、すでに100名を超える地域社会の方々に登録いただいている。こうした学内外のメンバーに対して、月に1回、メールマガジンを発行するとともに、2月に1回のペースで「ニューズレター〈ゆりのき〉」を発刊し、子育てサイエンス・カフェ開催の報告や予告、学内の子育て関連の取り組みやイベントの紹介、子育てに有用な情報を記載したトピックコーナーなどのコンテンツを通じて、定期的に情報発信を行っている。

2022年度も引き続き研究交流や情報発信を行うとともに、学内での子育て研究の活性化と研究者間の連携をさらに促進することで、本学の豊かな学際性を生かした「子育てサイエンス」のハブとしての役割を充実させていく予定である。

開催日	2021年度「子育てサイエンス・カフェ」発表タイトル	発表者
4月24日	日本女子大学 心理相談室のこれまで そしてこれから	堀江 桂吾 (心理学科)
6月19日	外国にルーツのある保護者への支援 - 保育所の認識と工夫 -	和田上 貴昭 (児童学科)
9月18日	SDGsとこども - 家庭・地域・地球環境から -	浅野 由子 (児童学科)
10月16日	子育ての楽しさの種をまく - 大学生の子ども会活動に注目して -	安藤 朗子 (児童学科)
12月17日	心理実験から紐解く親と子 ~ 親の感受性・応答性を検証する ~	麦谷 綾子 (心理学科)
3月5日	赤ちゃんとお母さんを守る避難所をみんなでつくっています、あなたもご一緒に！ - 文京区妊産婦・乳児救護所のトリセツ -	平田 京子 (住居学科)

子育てサイエンス・カフェ アンケート

社会連携室

【アンケート報告】2021年6月19日 <子育てサイエンス・カフェ>

外国にルーツのある保護者への支援－保育所の認識と工夫－

イベント名：<子育てサイエンス・カフェ>

外国にルーツのある保護者への支援－保育所の認識と工夫－

日時：2021年6月19日（土）10：30～12：00

場所：オンラインによる遠隔開催（Zoom）

参加人数：36名

アンケート：16件（回収率：44.4%）

<Q1>

●今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	9
本センターTwitter	0
チラシ（文京区）	0
チラシ（豊島区）	0
チラシ（北区）	0
チラシ（川崎市）	4
その他	3

その他…安藤先生からのお誘い

<Q2>

●今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・ボランティアをしたい
- ・今後、ゼミなどで文京区や豊島区の子供たちとのイベントなどを企画したいと考えていたため
- ・外国にルーツのある保護者への支援
- ・保育士養成校の教員として、現場の保育者や学生をつなぐこのようなカフェを企画したいと考えており、勉強させていただきたく参加しました。
- ・勤務している保育園に海外の方がいるため。
- ・児童学科の学生として、外国ルーツの家庭への支援についてリアルな状況や意見を聞いてさらに学んでみたいと思い、参加しました。
- ・外国ルーツの保護者支援で有効な方法を知りたいと思い参加しました。
- ・保育所の現状とどのような取り組みをしているかに興味がありました。
- ・子育て支援に興味があるため。外国にツールのある保護者についてはあまり考えたことがなかったため、新しい視点を取り入れたいと思った。
- ・外国籍のお子さんが増えてきたので、対応を知りたかった。
- ・外国にルーツのあると保護者支援というテーマに興味があった
- ・外国にルーツのある保護者への支援の工夫など知りたかった。
- ・外国にルーツのある保護者の困りごと
- ・保育所の環境や子どもの行動について研究しており、外国籍の子どもの行動や保護者の方の意識などに興味をもちました。

- ・児童学科の先生の講義に関心があったので。
- ・預かり児に外国人のルーツの方がいらっしゃるの、参考にさせていただきたく参加させていただきました。

※原文ママ

<Q 3>

●今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・保育に重要なことを学べてとても参考になった。
- ・質疑応答も含めて大変勉強になりました。ぜひ具体的な地域連携の在り方についても地域の方々と意見交換したいです。
- ・研究について丁寧に説明していただきわかりやすかった
- ・学生に子育て支援について伝えるうえでも、現場のニーズをお聞きするうえでも、大変参考になりました。
- ・本日はありがとうございました。自分からコミュニケーションを取ることに初めてはやはり、「突っ込みすぎなのかな」と思っていました、いい姿勢とのことで嬉しく思いました。今後はもっと積極的に保護者の方と話していきたい、そう思えるようになりました。ありがとうございました！
- ・大学の授業のなかだけでは知ることのできない、より詳しい現状や課題、対応の仕方などを学ぶことができました。ありがとうございます。
- ・貴重なお話をありがとうございました。
- ・やさしい日本語と聞いて以前台風の際にNHKがツイッターですべてひらがなで簡単な単語のみのツイートをしていたことを思い出しました。細かいところまでとはいかなくても、伝える姿勢が大切なのだと感じました。それと同時に、今回のお話で伝えることに一生懸命になりすぎず聞く姿勢も同じくらい大切だと思いました。
- ・外国にツールのある保護者や、そのお子さん、そして保育士の方々がそれぞれどのようなことに困り感を感じているのかが現実味を帯びて理解できた。
- ・保護者の困り感ということが、具体的に改めてわかった。伝わらない、どうしたら伝わるのか。とこちらの困り感もあるが、保護者も当然困ってるということを感じて寄り添っていかれるといいと感じた。
- ・大変興味深い講義をありがとうございました。現場で保育士をした経験があり、そのときの戸惑いが和田上先生のお話により、整理されました。カテゴライズしてくださっていたことにより、それぞれどのように対応したらよかったか具体的に考えることが出来ました。対話の時間も色々な方の意見を伺うことが出来、学びが深まりました。
- ・保育所と保護者の方針などの認識の違いを知り伝えることの大切さを再確認しました。また文化の違いにより認識や考え方の違いもありました。
- ・外国人の民族性、考え方が具体例から分かりやすくお話されて大変勉強になりました。和田上先生のお話もちろんです、参加された先生方、現役保育士の方のお話も大変勉強になりました。
- ・日本と外国の文化どちらも尊重して物事を伝える大変さがわかり、地域やボランティアの力が重要だと感じました。
- ・現場の困難や対応など意外と知らないと感じました。文化学科で学んだこと、特に多様な文化的背景など何か通じるなと思いました。

- ・とても勉強になりました。丁寧でわかりやすく説明していただき、ありがとうございました。やさしい日本語をつかってコミュニケーションをしていこうと思います。コロナが落ち着いたら、保護者同士の交流もすすめていきたいです。

※原文ママ

<Q 4>

- 社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・学内でできるバイト（土日だけ）
- ・上記と関連しますが、大学周辺の地域のママたち、高齢者、外国にルーツのある方、支援をしている方々、ボランティアや町内会の方とお話したいです。
- ・今回は保育でしたが、小学校、中学校、高校でそれぞれの立場から意見交換できる場があるといいと思います。
- ・実際に幼稚園や保育園に預けている保護者の方の声も聞きたいと思いました。
- ・地域福祉等に関して実際に足を運んで現状・課題を知ることができる機会があると嬉しいです。
- ・日本女子大学関連の子育て支援のプログラムなど、どのようなことをやっているのか実際に行われている方のお話を伺いたいです。
- ・PC、スマホ、タブレットなどが幼児に与える影響。・子育て支援の他地域へのつながり。
- ・仕事をしながら子育てしやすい環境整備、共働き世帯の現状改善意見交換、今回のテーマ関連など。

※原文ママ

<Q 5>

- 今後、大学より子育てに関する情報やイベントなどのお知らせメールをお送りしてもよろしいですか？

はい	12
いいえ	4

<Q 6>

- よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	0
小学校のご関係者	1
保育園のご関係者	4
現在子育て中の方	0
本学学生	8
本学教職員	1
その他	2

【アンケート報告】2021年9月18日 <子育てサイエンス・カフェ>

SDGsとこども ー家庭・地域・地球環境からー

イベント名：<子育てサイエンス・カフェ>SDGsとこども ー家庭・地域・地球環境からー

日時：2021年9月18日（土）10：30～12：00

場所：オンラインによる遠隔開催（Zoom）

参加人数：76名

アンケート：45件（回収率：76%）

<Q1>

●今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	23
本センターTwitter	2
チラシ（文京区）	0
チラシ（豊島区）	0
チラシ（北区）	1
チラシ（川崎市）	2
チラシ（北海道日高管内7町）	4
その他	15

その他…ジャスミンナビ…4件

紹介・職場の案内・川崎市教育委員会・塩崎先生から・講師の浅野先生・日本女子大学の先生のご紹介・家政学部松月弘恵先生からの紹介・縦の会会員・知人から

<Q2>

●今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・卒業生として、現在母校がSDGsに対してどういう活動をされているのか興味がありました。
- ・日本女子大学さんからのチラシを見て参加したいと思いました。
- ・SDGsについて内容をきいてみたいと思いました
- ・SDGsで私たちができることを学びたかった
- ・SDGs とは何なのか気になっていたので参加しました。
- ・SDGsとこどもでは、どのような関係性があるか気になったため
- ・SDGsの内容について興味があり参加しました。
- ・SDGsについて興味があった
- ・子供とSDGsとのテーマに関心を持ちました
- ・SDGsについて知ることができると思ったからです
- ・どの分野においても今後の指針となるテーマであると思った。
- ・子育てをしたことがないが、子育てや環境に関心があったため。
- ・SDGsについて、スウェーデンの環境について
- ・児童学科の学生で、子供に興味があったから。
- ・子どもとSDGsとの関係
- ・幼稚園でSDGsにどう取り組めばいいか悩んでいたため参加いたしました。
- ・タイトルに惹かれました。
- ・SDGsへの取組の違い、最善な方法は何か？
- ・スウェーデンのSDGs関連活動の現状を知りたかった。

- ・子どもとSDGsについて、具体的に知りたいと思いました。
- ・SDGsの現状 海外の様子
- ・今後大学院にてSDGsと食育の関係の研究したいと考えており、参考になると思ったため。
- ・北欧の教育について知ることで日本でも取り組めることがあるのではないかと思います、参加させていただきました。
- ・勤務先や家庭でSDGs達成に向けて何か出来ることはないかと思い参加致しました。
- ・学校図書館司書をしています。SDGsの子どもの本がたくさんあり、どのように子ども達に伝えるか学びたいと思いました
- ・家庭地域教育学級講座を運営するため、子育て世代の親世代に提案したい内容だったために参加しました。
- ・ESDの事例や、その社会意識を醸成するための課題について考えたかったため
- ・子ども達の未来のために私たちがしなければならない事・・・大きなところで保育を見るようにしたい
- ・子どもの未来についてや、海外におけるSDGsの取り組みについて興味がありました。
- ・スウェーデンにおけるこれまでのSDGsの取り組みと総括的評価
- ・授業でスウェーデンの教育や福祉について学ぶ機会がありました。その際に、実際はどのような感じなのだろう、行った方にお話を伺いたいと考えておりました。なので、今回参加させていただきました。また、SDGsについて考える機会が増えてきたので、自分にできることや将来でできることは何かあるのかなと思います、参加いたしました。
- ・森林の多いスウェーデンがどのように子どもたちと環境について考え取り組んでいるのかについて興味がありました。
- ・児童学を学びたいと思っており、特に浅野由子先生が研究していらっしゃる事（SDGsと児童、スウェーデンについて）にとっても興味を持っていたため。
- ・小中学生の子供がおります。未来の地球環境に不安があり、私たちにできることを考えたい為。
- ・SDGs 海外との比較 こどもの関りについて
- ・スウェーデンでの実際の取り組みと子どもの未来を考えるという点に興味があり参加いたしました。
- ・スウェーデンのSDGsについて
- ・SDGsに興味があったので参加させていただきました。
- ・子どもたちを取り巻く環境とSDGsのかかわりを知りたかったので参加しました。
- ・国際的視野での自然環境保護の取りくみと、子どもの教育とのつながりを考えるために
- ・SDGsに関心があった。
- ・スウェーデンの保育・教育に興味がありました。
- ・SDGsに関心あり、児童学科の先生の講義を受けてみたいと思ったので。
- ・子ども食堂を開催している。
- ・SDGs,スウェーデンの国情

※原文ママ

<Q 3>

- 今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。
 - ・前半の北欧の部分については書店等で見かける本などで既に知られていることばかりだったので、実践論としての金山町でのお取り組みなどをもっと聴きたかったです。

- ・これからもこのようなイベントがありましたら是非参加したいです。
- ・SDGSについて学習することができよかった。
- ・身近な小さなことがSDGsになることが理解できました
- ・持続可能な社会を作るという上で未来を見据えて考える行動するということが大切であるということがわかりました。
- ・スウェーデンのペットボトルのリサイクルしたら、キャッシュバックがくる仕組みについて知って、日本にもこのような仕組み作りができれば良いと思います。
- ・とてもわかりやすい内容で勉強になりました。自分のできることをしたいと思いました。
- ・SDGsという言葉をよく耳にしますが、どのような取り組みなのか全く知らなかったもので、少しでも取り組みについて知ることができて、私にもできることがあると知ることができてよかったです。ありがとうございました。
- ・SDGsの取り組みの重要性について再認識することができました。
- ・子ども本人のためだけでなく、社会を良くするためにも、子育て・教育が大切なことが良くわかりました。
- ・貴重なご講義ありがとうございました。意見交換等の時間がもう少しあったらよかったと思います。
- ・グレートウンベリさんの意思表示が感動した。
- ・途中で挙手のやりとりがあったことで参加しながら視聴できたように思います。途中、挙手を押す際にミュートも誤って押してしまったみたいでご迷惑をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。
- ・「子どもたちと一緒に考えていくことが大切」まさにその通りだと思います。大人から働きかけていくことも大切だと思いますが、それをおこなって大人が満足して終わりではなく、この問題には終わりはないはずです。日々のさりげない生活の中に、例えば保育室のごみ箱を分別していますが、何のために行うのか？ その意味を年齢に合わせて話し合っているだろうか？ 遊具を片付ける際に大切に扱っているだろうか？ まずは私たちの意識の変革が求められていると痛感いたしました。できることから始めてみたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。
- ・常に意識しておかないと今までと同じ生活をしてしまう。これは、日々の反省からスタートとなるのでしょうか。
- ・大変よい勉強になった。
- ・まずは、大人からのアクション。自分自身の勉強不足もあるので、SDGsについて学び、保育に生かしていければいいなと思いました。
- ・人づくりの大切さという部分に共感いたしました。一人一人の意見を聞くことが義務であることが素晴らしいと思います。意識していきたいです。
- ・日本や世界の現状を振り返ると同時に、実際に実現している取組を知ることで参考になりました。人づくりが社会づくり結びつくという視点は持っていなかったため、教育との関連にも気が付くきっかけになりました。ありがとうございました。
- ・写真、データ、国としての取り組みなど、様々な資料を用いてお話してくださったので、この後自分でも調べるきっかけになり、非常に勉強になりました。
- ・娘達の将来のため、環境に対して関心を持つよう親が見せていく必要があるんだと思いました。
- ・最後に学生さんから質問がありましたが、豊かな時代に育った若い方にはこの問題に対して自分ができることはたくさんあることに気がつかないのだなと思いました。具体的に、生活の中で

きる小さなことを教えてあげないと気づかないのではと思いました。マイボトルやマイ箸を持つ、無駄な食料やエネルギーを使わないなどできることはたくさんあるはずです。

- ・日本のランキングの低さに驚いています。子ども達の講座でもSDGsを取り上げています。川崎よりもっと多くの人に発信出来ればと考えています。
- ・スウェーデンのSDGsへの社会的受容を目の当たりにすると、日本でも大転換を急ぐ気持ちになってしまうが、現場や個人の工夫・政治への意見なども大きな意味を持つと再認識できた。
- ・保育の研修のテーマでは今までなかったので、直接保育ではないけど、つながって、面白かったです。
- ・視野を広げなくてはと思いました。
- ・本日はありがとうございました。スウェーデンに自然享受権というものがあると知り、大変興味深かったです。自然は人類が共有する財産という意図も感じられ、具体的にどのような権利と義務が発生するのか詳しく知りたいと思いました。
- ・講義内で動画を見たことが印象的でした。グレタさんのものが特に印象に残っています。自分からではそこまで調べてみる機会はなかったけれど、自分よりも小さな子が一生懸命世の中を見て、変えていこうとしている姿に自分は何ができるかと更に考えるきっかけとなりました。実際にスウェーデンで行われていることの事例も知ることができて良かったです。
- ・大変貴重なお話をありがとうございました。私は、スウェーデンでの取り組みが、フィンランドの教育改革の様子が国が舵をきり、改革したのかと思っており、なかなか日本で取り組むことが難しいのではないかと感じておりました。しかし、すでに日本でも環境を考えた様々な取り組みが生活の一部にあったことに気がつきました。大きな事ではなく、私たち一人ひとりが出来る身近な事に取り組む、環境を少し意識する事が大切なのではないかと感じました。本日はありがとうございました。
- ・本日は貴重なお時間を本当にありがとうございました。私はまだ高校3年生で児童について理解していない部分もたくさんあります。ですが、今回の企画に参加して、質の高い教育として知られている北欧のSDGsを絡めた教育法についての知識を得ることができたことに加え、これからの社会を発展させる人材である児童たちが持続可能な社会を作るために幼稚園・保育園からどのような取り組みをしていくべきなのかを考えるきっかけになりました。また、浅野由子先生のもとで日本の幼児教育について国際比較をしながら探求していきたいという思いが一層強くなりました。今後の企画も是非参加させていただきたいと考えております。
- ・とても勉強になり、SDGsについて理解が深まりました。自分ができる事、考え実行していきたいと思います。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。強いて言えばいろいろな方の考えも聞いてみたかったです。
- ・私は管理栄養士です。保育園と食品メーカーでの勤務経験があります。SDGsに関して本日浅野先生のお話を聞き、まずは一人ひとりが意識するということが必要なのではと感じました。日本ではまだまだSDGsと聞くと何をすれば良いのか分からない、SDGsのために何かを大きく変えなくては、という思考が強いと感じます。一方スウェーデンでは日常にSDGsの取り組みが散りばめられており、全ての人がSDGsを意識せずとも実践している環境が既にあるようでした。いずれ日本もスウェーデンのような環境が整うことが理想とは思いますが、まずは個人が出来ることを、一つずつ。日常にあるSDGsを探す(話す)ことから始めるのも良いのではと感じました。食品メーカーとしては、自社の取り組みをHPに掲載していても、消費者に影響を与えている実感がないのが現実だと思います。各企業が日本の食を担う一企業として未来を考えるきっかけになる

ような情報発信をすると共に、より先進的なSDGsの実践にチャレンジすることが必要だと感じました。Q6.地球(子ども)の未来に出来ること、に関して、大きく言えば“環境を整えること”だと考えます。「SDGsとは」を学ばずとも実践出来ている社会になるために。「SDGsとは」を学んだ時にあれもこれもSDGsだ！他に何が出来る？と考えられるように。かつて食育という言葉がまさにそうだったように感じています。初めは何をどうすれば？大変なことだ！と感じていた部分がありましたが、実際は日々の食事こそが食育実践の場、食事(給食)は“生きた教材”と呼ばれるほど生活に密着した考え方・取り組みです。日々の中でSDGsを意識し、話し、行動することの積み重ねが未来の地球環境をより良くする一番の近道だと考えます。SDGsについて気軽に話し、行動できる環境を作ることこそ、未来を担う子どものために今私が出来ることだと感じました。そのためには子どもと普段直接かかわることのない行政機関や企業などの協力も不可欠であり、課題が山のようにあるのもまた現実ですが、まずは出来ることを一つずつ、これからも管理栄養士として、子どもの健康と成長、そして未来を支えていきたいと思えます。最後になりましたが本日は貴重なお話をありがとうございました。また機会がありましたら是非参加させていただきたいと思えます。

- ・ スウェーデンについて先生の実体験を元に話していただいて、初めて学ぶこともとても多く、大変タメになりました。ありがとうございました。
- ・ スウェーデンの幸福度の高さは聞いたことがあったが、細かくどんな“いいこと”があるのかまで特に知らなかったのが、実際の取り組み例なども知ることができてとても興味深かったです。サステナブルな未来をつくるための教育をこれから日本もどんどん行っていく必要があると痛感しました。
- ・ 誰でも参加可能な企画でよかった。子どもの教育（保育を含めた）に重点を置いたSDGsの取り組みの紹介をお願いしたい。
- ・ 孫と一緒に参加するつもりでしたが我が家まで大雨のためこれぞ残念でした。とてもよい講演会でした。
- ・ 実際の実践の話がうかがえて興味深かったです。まなスウェーデンだけではなく、日本のお話もありいろいろな視点から考えることができました。
- ・ スウェーデンから見習いたいことが沢山ありました。全てを真似するのではなく、日本社会に合わせた形や政策で改善していくのが良いと思えます。以前から北欧が様々な面で優れていることを知っていましたが、活動家のような大きな改革はできなくても、身近にできることからやってみようという刺激になりました。
- ・ 海外での取り組みがとても勉強になりました。
- ・ スウェーデンの生活実態について学ぶことが出来ました。

※原文ママ

<Q 4>

●社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるか、ご自由にご記入ください。

- ・ 自然科学系の講座
- ・ 地方創成や過疎地域など
- ・ 是非又参加したいです
- ・ 待機児童問題、虐待などしゃかいもんだいについて。ブックスタートや音楽との関わりなど親子で楽しむことができることについて

- ・ECO検定を取得しようと考えているので、その検定に関連した知識、情報を発信する機会があればいいと思う。
- ・子ども達の選択肢をどのように増やせるか？
- ・こどものいじめについて
- ・子どもの心理に関することや保護者への支援、教育・保育に関する今日的課題などの講義をして頂きたいです。
- ・子育てやジェンダーなど
- ・電気エネルギーを全く使わず生活している方がいらっしゃいます。どのように改善していけば、少しでも電気エネルギー使用量が少なくなれるかにきょうみがあります。
- ・今回のイベントは参加者が課題を持ち帰れるものだった。そのためイベントの第2回目を設け、1回目の参加者自身が短いプレゼンを持ち寄れるような相互参加があると良いと思う。
- ・SDGsの各17項目に特化した活動をしている専門家のお話が聞きたいです。
- ・日本の幼児教育を更に良くするためにはどうしたら良いのかについての企画もぜひ行っていただきたいです。
- ・育児休職後の再就職について
- ・ヤングケアラー、奨学金問題、2022年4月成年年齢引き下げによる消費者トラブル
- ・コロナ禍で日本以外の国に行くことができないので、世界に関する問題などを取り上げてくださると大変嬉しいです。
- ・日本の障害児教育の現況を考える企画が欲しい 保育士は障害児に対する知識は必要（とても乏しいと感じています）
- ・子育て支援や医療的ケアのこどもの支援などを知っていただくことができれば良いかなと！
- ・世界の子供教育の日本との比較から日本の子供教育の改善を話し合うような企画。
- ・発達障害、療育手帳を持つ子供たちへの指導方法や就職支援など
- ・コロナウイルスの感染者数抑制の根本的な対策（無症状者の隔離）、少子化対策（非正規雇用者の正規化転換）

※原文ママ

<Q 5>

- 今後、大学より子育てに関する情報やイベントなどのお知らせメールをお送りしてもよろしいですか？

はい	33
いいえ	12

<Q 6>

- よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	2
小学校のご関係者	2
保育園のご関係者	3
現在子育て中の方	1
本学学生	12
本学教職員	5
その他	18

その他

本学卒業生… 2

日高町役場企画財政課 まちづくり広報統計グループ、公務員（日高町）、地方公務員
学生保護者、現在子育て中の方、坂戸市役所職員、受験生、本学大学院修了生
高校3年生（関東学院六浦高等学校）、小中学生の母親、学術研究員
食品メーカー社員、臨床発達心理士卒業生

【アンケート報告】2021年10月16日 <子育てサイエンス・カフェ>

子育ての楽しさの種をまく－大学生の子ども会活動に注目して－

イベント名：<子育てサイエンス・カフェ>

子育ての楽しさの種をまく－大学生の子ども会活動に注目して－

日時：2021年10月16日（土）10：30～12：00

場所：オンラインによる遠隔開催（Zoom）

参加人数：29名

アンケート：22件（回収率：75.8%）

<Q1>

●今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	16
本センターTwitter	1
チラシ（文京区）	0
チラシ（豊島区）	0
チラシ（北区）	0
チラシ（川崎市）	0
チラシ（北海道日高管内7町）	2
その他	6

その他…社会連携室からのイベント開催案内メール、大学のメール、大学の先生から；

<Q2>

●今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・子ども会の活動がどのように成り立っているか興味があった。
- ・子育ての研究や子ども会の活動に興味があった
- ・子育て支援
- ・こども会活動をもっと知りたくて。
- ・日本女子大学の家政学部に興味があるため
- ・子供たちとの関わりについて、どのようなアプローチがあるのか
- ・どのような活動をしているのか知りたかった
- ・子ども会の活動に興味があったから。
- ・大学生のこども会活動の概要について興味があったから
- ・子ども会活動の役割
- ・私は児童学科の1年生なのですが、子どもとのふれあいが子育て不安解消とどのような関わりがあるのか気になったからです。
- ・日本全体の子育て力を高めるための示唆が得られると思ったので。

- ・学生の頃、駒場子ども会に所属していたため。
- ・タイトルが素敵で参加いたしました
- ・学生が行っている子供会活動に興味をもったので
- ・安藤先生の講演会で子育て支援に興味があったから
- ・保育の仕事をしており、現役の大学生がどのような思いで子どもに接しているのか興味があったので。
- ・家庭科教育や家政学、生活経営学等を専門としており、本学において家庭科概論等を担当しております。乳幼児との触れ合いや、子育てについては、専門分野からも大変興味がありました。また子ども会についても、現状をいろいろ知りたいと思いました。
- ・子ども、育児に興味あります
- ・子育てサークルの取組について
- ・大学生が子ども会を運営している事を知り、内容や目的に興味をもった為
- ・安藤先生の「育児不安研究について」に興味があったこと、そして「子育ての楽しさの種をまく」というテーマに惹かれました。

※原文ママ

<Q 3>

●今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・実際に大学生が子どもと関わる機会が大切であり、そのような場の啓発が必要であると理解できた。
- ・大学生の子ども会活動は、今後の子どもへの理解を深める意味でも重要だと思います。安藤先生のお話はじめ学生さんのお話は大変興味深かったです。地域の宝ですね。
- ・安藤先生 司会、進行お任せしてすみませんでした。最初の先生のレクチャー、とても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・駒場子ども会に所属する学生さんの話を聞き、とても興味を持ちました。日本女子大学に入学することができたら、ぜひ参加したいです。
- ・学生さんたちの純粋な活動の感想を聞くことができ良かったと思います。子供達との関係性も子供会ならではの事、その事が一番大事なところかなと思いました。友達のような関係というのがいいと思いました。
- ・入会して実際に活動した感想を聞いて良かったです。
- ・実際に子ども会を運営していた学生の実体験を聞くことができ良かった。
- ・概要だけでなく、参加されている学生の方がどのような気持ちで活動されているのか、子どもを預けている母親はどのような気持ちなのかなど知ることができ、もっと詳しく知りたくなった。
- ・子ども会活動の効果について、実証的なデータがあるのもっと分かりやすかったです。
- ・数人のグループに分かれて意見交換を行うような時間があればもう少し色々な意見が出たのではないかと思います。
- ・1963年当時、すでに子どもが勉強やテレビ、漫画だけの世界に入ってしまうことを危惧し、外遊びの機会を作る必要性を感じている方がいたことに驚きました。外遊びや異年齢交流の機会は、今日益々重要になってくると思います。駒場子ども会の活動は、子どもたちにとってそのような機会を提供する重要な場になっているとともに、企画運営する大学生にとっても、子どもと関わる機会だけでなく、責任感や大変さ、子どもの多様性と一人ひとりにきちんと向き合うことの大切さを学ぶ機会になっていることがわかり、相互互恵的な活動であると感じました。この活動

は、子どもにとっても大学生にとっても人間力を高める場となっているのではないかと思います。ぜひ、この活動の意義を実証的に明らかにしていくことを期待します。本日はありがとうございました。

- ・本日はどうもありがとうございました。私も学生の頃駒場子ども会に所属していたので、今日はどんなお話が聞けるのかと楽しみにしておりました。現在私は社会人3年目ですが、今日発表されている3人の学生さんのことは学年も重なっていないため存じ上げず、私の知らない新しい時代にも子ども会の良さが引き継がれていることを嬉しく思いました。コロナ禍で子ども会はどのように活動しているのだろう、とふと思ったこともありましたので、そういったことも聞けて良かったです。まだまだ大変かとは思いますが学生さんたち、頑張ってください！また本日発表された鈴木さんは、昨日まで私の務める園で実習されていた方です。終わってすぐということで大変だったかと思いますが立派に発表されていて、実習中も子どもに対する考察がとても良いと感じていました。本日になって子ども会所属だということを知り、実習でも少なからず子ども会での経験が生きていたのではないかと思います。最後に、私は大学4年間の子ども会活動を経て、幼稚園教諭になりました。子ども会に入るまで、親戚にも自分より歳下がおらず、子どもと関わる経験がなかった私がこの職に就いているのは、子ども会での経験が私に少し自信をくれたからだと思っています。子どもと関わる仕事に就きたいけれど本当に自分に出来るのか、という不安を持ちながらもなりたい職業に1歩踏み出すことができました。これからも続いていってほしいと思います。
- ・学生さんたちから、“子どもってかわいい、遊ぶと楽しい、準備など大変だけどその後の子どもたちの楽しむ姿からやりがいを感じる”という声を聞くことができ、とても嬉しかったです。それと同時に、そのように純粋な思いを抱いて実習に臨んでいる学生さんたちに、ネガティブな感情だけが残るような実習指導をしていないだろうか？という点が心配になりました。実習指導の在り方を見直す必要性を感じています。「指導者-学生」という上下関係ではなく、子どもの育ちを支える同士として、その子どもの「今」について共に気づきを対等に語り合うことで、見えてくる姿があるのではないかと考えています。少しでも教職の魅力を感じてもらい、未来の子どもたちのために若い力を注いでほしいと思いました。また悲しいことですが、我が子のことを「かわいい」と思えない保護者も現実にはいます。親になる前に乳幼児と触れ合う機会が今後より一層増えていくように、このような子ども会活動の魅力を発信していってほしいです。そのためにはどうすればよいのでしょうか？若い世代にはどのような手段だと心に響くのでしょうか？実践している学生さんたちとの対話を通して、今後も活かされていることを切に願います。本日はありがとうございました。
- ・学生さんや参加させていた保護者の声も聴けて良かったと思います。
- ・学生の意見や考え方が分かり興味深く拝聴した
- ・面白かったです。時間や内容もちょうど良かったです。
- ・安藤先生の調査結果やレビューからのご講義も大変興味深く拝聴しました。さらに、大学生たちのプレゼンもとても分かりやすく、子ども会会長の立場からの話やヘルパーとしてかかわっている（児童学科の）学生さんの話、またご自身が子どもの時と学生になっての二つの立場で参加していることから見えてきた話（ご家族からのコメントも含め）大変素晴らしかったです。
- ・学生が行っている取り組みから、子育てについて考えるきっかけとなった。
- ・小中学生の子供をもつ親として、地域にこのような子ども会があればぜひ参加したいと思いました。子供は、なるべく沢山の大人と関わって育ったほうが良いと考えております。大学生にとっても、とてもいい経験になる事と思います。

- ・学生時代に駒場子ども会で活動していた友人（70代）に今回の後輩方の活躍をお伝えしたら、大変喜んでいらっしゃいました。若い方々が多くの子ども達と触れ合うことによって、一人ひとりの子どもの持ち味の違いを感じて頂き、そして、ご自分たちが子どもを持たれたときに、偏差値的な見方ではなく、その子らしさを大切に育てて頂きたいと思いました。子育てを楽しめるような社会の構築に向けて、安藤先生の育児不安になる発生要因、少子化社会対策、子どもとのふれあい体験不足のお話等々、興味深く伺いました。ありがとうございました。

※原文ママ

<Q 4>

- 社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとういかに、ご自由にご記入ください。

- ・大学生と社会人をつなぐイベント、就活ではなく、様々な生き方や価値観についてのテーマが良いです。
- ・地域において子どもとの関わりを積極的にされている活動をもっと知りたいです。
- ・子どもに与える新型コロナウイルスの影響や懸念について、様々な立場の方(大学の先生、保育士や幼稚園、小学校教諭など)からのお話を聞く企画などがあれば、是非参加したいと思います。
- ・コロナ禍における育児不安の現状と対策について詳細を知りたいです。
- ・先日のSDG'sの続きや防災に関する問題
- ・今回は安藤先生は乳幼児との触れ合いについての話で、学生さんたちの活動は小学2年生以上を対象とした活動でした。できれば乳幼児との触れ合い体験をしている学生さんたちがいれば、彼らの話も聞いてみたいと思いました。
- ・子育てに限らず、他分野のテーマを取り上げてもいいと思いました。
- ・小中学校へ大学生が訪問して、一緒に学ぶイベント(例えば、英語学習やプログラミングなど)
- ・次世代を担っていく子ども達をどのように育てていくかということ、社会構造、家庭観、ジェンダーの問題等々、いろいろな側面から教えて頂きたいと思います。またコロナ禍の中で、子ども達がインターネット、Youtube、SNSなどに触れる機会が増えましたが、良い点、問題になる点、その対策等について取り上げていただきたいと思います。

※原文ママ

<Q 5>

- 今後、大学より子育てに関する情報やイベントなどのお知らせメールをお送りしてもよろしいですか？

はい	18
いいえ	4

<Q 6>

- よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	0
小学校のご関係者	0
保育園のご関係者	0
現在子育て中の方	2
本学学生	9
本学教職員	7
その他	4

その他

アート関係（療育を含む）（日高管内）

高校生

児童学科卒業生

卒業生 児童学科縦の会

【アンケート報告】2021年12月17日 <子育てサイエンス・カフェ>

心理実験から紐解く親と子 ～親の感受性・応答性を検証する～

イベント名：<子育てサイエンス・カフェ>

心理実験から紐解く親と子 ～親の感受性・応答性を検証する～

日時：2021年12月17日（木）12：40～13：10

場所：オンラインによる遠隔開催（Zoom）

参加人数：24名

アンケート：15件（回収率：62.5%）

<Q 1>

- 今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	4
子育てサイエンス・ラボメールマガジン	5
子育てサイエンス・ニューズレター	0
学内イントラ	4
その他	2

その他…ジャスミンナビ、学内メール

<Q 2>

- 今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・心理実験に興味があったから。
- ・仕事で母子に触れる機会が多いので興味があった。
- ・心理実験から紐解く親子の検証というテーマに興味を持ちました。
- ・子育てについて何か学べたらと思い参加させていただきました。
- ・心理実験と、子育てサイエンスラボの活動に興味があったため。
- ・子育てサイエンスカフェの「サイエンス」ということばに興味をもった。
- ・子育てをしている世代なので、どのようなことをしているかとりあえず見てみようと思い参加した。

- ・親子のコミュニケーションに興味があります。
- ・親と子どもの心理において、実際に検証した結果について詳しく知りたいと思いました。
- ・心理実験からどのようなことが分かるのか知りたかったから
- ・子どもとの関係性や関わり方について
- ・親子について心理的側面からの講義に興味を持ちました。
- ・母親としてこそ手にはどうか変わっていくことがいいのか知りたかった。
- ・子育てについて、親と子の感受性と応答性

※原文ママ

<Q 3>

●今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・Wiiボードを実験に使うというのは考えたことがなかったので、とてもおもしろい実験だなと思いました。
- ・今どきの親子を日々見ている、SNSなどの影響により私の子育て時代の感覚とは違うのかと思ったが、特にそうは思わなかった。
- ・親と子供の関係を知ることができて面白かったです。将来、自分にも関わることなのでこういうことを学べて本当によかったです。
- ・とても興味深く、もっと詳しくお話を伺ってみたいと思いました。親は子の顔だけでなく声も認識するというお話も面白いと思いました。顔だけでなく、子の全身のシルエットでもポップアウトするという経験をしたことがあるので、とても興味深くお話を伺いました。ありがとうございました。
- ・とても興味深い研究でした。また他のお話も伺ってみたいです。
- ・最近姪っ子が産まれたのですが、まさに「歌いながら抱っこしてゆらすと泣き止む」という体験をしたばかりだったので、実験結果がとても興味深かったです。
- ・研究の楽しさ、共同研究のよさ等も伝わってきて、とても楽しい内容でした。実際の育児に役にたつ内容で、科学的な根拠ある育児により、子育てをする親の心理的な不安感、負担感を軽減できると感じました。ありがとうございました。
- ・学内にいても先生の研究内容を知る機会はないので興味深かった。
- ・音楽のあやし行動についての研究が興味深かったです。
- ・説明の中で、特に印象に残ったのは、母親の「あやし行動」の心理実験です。実際に行動した結果によって赤ちゃんの心拍反応が変わることが分かり、面白かったです。もともと子育てについて関心があるので、今後、親と子の関係性についてなど、詳しく調べてみようと思いました。ありがとうございました。
- ・今回とは別となりますが、検証の結果がどのような形で、実際の現場で役にたっていくのかわかれば、とも思いました。
- ・本日は貴重なお話をありがとうございました。大変興味深く拝聴しました。途中子どもの世話等しながら参加させていただいたため、ビデオ機能の使用や質問等が出来ず失礼しました。特にあやし行動の研究が子どもとの関わりに直接活かそうと、とても勉強になりました。聞かせる音楽の曲調やテンポによっても子どもの心拍数に差が出るのか等、さらに知りたくなりました(夫が子どもを抱っこして歌っていると、アップテンポな曲でも子どもがしばしば入眠するため、日頃から不思議に感じていました)。
- ・今後、子育てをする立場になった場合を想定しながら聴きました。子育ては大変ですが、心理的

に考えると色々な考え方や心理学としての面白さが感じられました。

- ・様々な研究の結果に基づいたお話で聞いていて学びになったし楽しかった。
- ・オキシトシンについて今まで少し聴いていましたが、今日のお話で新しい発見がありました。とても勉強になりました。ありがとうございます。

※原文ママ

<Q 4>

●社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・親子における読書や本について。
- ・女子校で成長していく子どもへの対応の仕方などを学べたら嬉しいです。
- ・今回のように、平日のお昼の参加の機会を増やしていただけると嬉しいです。
- ・前問にも関連してですが、大学内でどのような研究をしているかを学内外に広める内容を期待します。学会等で学外に発表されていると思いますが、専門の方以外でも興味を持てるようなレベルで話をしてもらえると本学に興味を持っていただけたと思います。
- ・カフェ後のディスカッションがとても貴重でした。ぜひ今後ともよろしく願いいたします。
- ・子どもの発達、子どもへの関わり方、子どもの食事など、育児に直接活かせる情報を得られる機会があると有難いです。
- ・今回のように心理学から子育てを考える企画は大変興味深いので、継続してほしいです。他は前回のように社会と子育てのあり方を社会的問題から取り上げた児童学科の先生の講義を踏まえて、より現在の社会的問題に即した内容も良いのではと思います。
- ・少子化対策や子育て支援

※原文ママ

<Q 5>

●今後、大学より子育てに関する情報やイベントなどのお知らせメールをお送りしてもよろしいですか？

はい	10
いいえ	5

<Q 6>

●よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	0
小学校のご関係者	1
保育園のご関係者	0
現在子育て中の方	0
本学学生	5
本学教職員	4
その他	5

その他

リカレント教育課程担当講師

卒業生 現（一般社団法人音楽発達サポート協会 代表）

修了生・心理相談室嘱託相談員（子育て中）

卒業生 2 名

【アンケート報告】2022年3月5日 <第6回 子育てサイエンス・カフェ>

赤ちゃんとお母さんを守る避難所をみんなでつくっています、あなたも一緒に！

－文京区妊産婦・乳児救護所のトリセツ－

イベント名：<子育てサイエンス・カフェ>

赤ちゃんとお母さんを守る避難所をみんなでつくっています、あなたも一緒に！

－文京区妊産婦・乳児救護所のトリセツ－

日 時：2022年3月5日（土）10：30～12：30

場 所：オンラインによる遠隔開催（Zoom）

参加人数：23名

アンケート：13件（回収率：56.5%）

<Q1>

●今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	1
子育てサイエンス・ラボメールマガジン	5
子育てサイエンス・ニューズレター	1
学内イントラ	7
その他	2

その他…日本女子大学社会連携教育センターからのメール、ゆりのき

<Q2>

●今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・妊産婦・乳児の救護所について興味がありました。
- ・大学が災害時にどのような対策をしているのか興味があった
- ・避難所で自分に何ができるか考えること
- ・将来、行政で働きたいと考えており、行政と大学が連携している取り組みについて知りたいと思っていたから。
- ・区と大学の連携という視点
- ・災害が発生した際に私にもできることがあるのか、具体的な内容に興味を持ちました。
- ・母子避難所とはどのようなものなのか
- ・自治体と大学が連携している取り組み全般に興味があり参加しました。
- ・妊産婦・乳児避難所の活動を詳しく知りたいと思っていました。
- ・妊産婦・乳児救護所がどういった場所なのか、また取り組みを知りたいと思い、参加しました。
- ・赤ちゃんと母親が安心できる避難所について気になったため。
- ・先月頃の読売新聞にあった防災関連の記事で、救護所について触れられており、具体的にどのように運営されているのか気になったので参加した。
- ・児童学科に所属していて、妊産婦・乳児に関することと聞いて興味を持った

※原文ママ

<Q 3>

●今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・知らないことばかりだったのでとても勉強になりました。日頃から避難所について知っておくことは非常に重要だということが身に染みて感じました。
- ・今回のお話を聞くまで妊産婦や乳児を救護する取り組みがあることを知らなかったので、大学がどのような取り組みを行っているのか分かりよかった。災害への備えをしっかりとっておきたいと感じた。
- ・日頃から大地震に備えなければならないことを実感した。
- ・私は、食物学科 管理栄養士専攻で、鈴木礼子先生の授業内で、災害時の食事についても少し勉強したことがあります。せっかくなので、妊産婦・乳児救護所の取り組みに活かせる部分があればよいなと思いました。現在は就活中のため、学生ボランティアにすぐ参加することはできないのですが、就活が終わったらぜひボランティアにも参加してみたいと思いました。1, 2年生のうちに子の取り組みを知っておきたかったです！貴重なお話、ありがとうございました。
- ・女子大だからこそできることが沢山あると感じました。区と連携するといっても、やはり大学主体で動かなければならないところは多くあり、もっと学生として出来ることを考えなくてはならないと思いました。
- ・平田先生の解説のもと、日常からのつながりの大切さを学び、今後の大学生活を見直すきっかけとなるよい機会をいただけたと感じます。ありがとうございました。
- ・災害はいつ発生するか予測不可能です。このような取り組みが日本女子大学で行われていることが大変素晴らしいことであると思いました。備えあれば患いなし、の言葉は大変深い意味があり、平田先生のおっしゃる日頃からのつながり、しかも長くつながることが非常時に役立つ一つの要素になることが再確認でき勉強になりました。
- ・近い未来で起きる災害を想定して事前に備えを準備していく上で、まだまだ様々な課題が残っているかと思いますが、今回のようなイベントを開催することでたくさんの人の意見を集められるため、新たな課題発見やその解決に役立つという素晴らしい機会だと思いました。
- ・平田先生、ご講演ありがとうございました。さまざまな研究を学生さんとともになさってこれられ、それらの成果を知ることができ、学ぶことがたくさんありました。身近に迫っている危機を自分事として考え、さらに支援者としてできることを考えるきっかけとなりました。今後の活動に自分のできることで協働させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。
- ・卒業後は公務員として働くことを考えているため、自分が職員として災害時特に不安な思いを抱えている妊産婦にどのような支援ができるのか考えることができました。また、学生が積極的に活動されていることを知り、自身も学内ボランティアに参加したいと思いました。
- ・今回で、避難所や備蓄などについて意識を高めて、自分には何が足りないのかを考えることが大事だと理解できました。平田先生の「日頃からつながる」という言葉が印象に残ったので、その言葉を心に留めておきたいです。貴重なお話を伺うことができて良かったです。本日はありがとうございました。
- ・区ではなく、場所を提供する大学の学生や教職員が主体となって運営していく、というのは知らなかったことだ。救護所を作る取り組みは、とても画期的なことだと思っていたが、実際に何日も開放を続けるのは簡単なことではないとわかった。開放にあたっては、物資というよりは、運営をする側のマンパワーや、誰をどれくらい受け入れられるかの課題の方が大きいというから、誰がどんな風に動いて救護所として成り立つのか、ということを広めることも大切だと思った。
- ・大学が妊産婦・乳児救護所に指定されていること自体、今回初めて知ったので、新たな学びが多

かった。他の授業でも、子育て家庭を支援する上で日頃から他機関と関係を築いておくことの大切さは学んでいたが、災害時の支援対策においても同じことなのだと改めて気付かされた。また冒頭で「物をもらうだけの支援ではだめになる」という話があったが、災害時の支援というと物資支援のイメージが強かったので、避難者が自分で生活したり助け合ったりできる仕組みづくりが必要というのは新たな学びだった。

※原文ママ

<Q 4>

●社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・理系と、他の学部の専攻とがコラボして何かできると良いなと思います。
- ・子育てをする上で時代や環境に左右されない大切なことを、若い母親やこれから母親になろうとする人に伝える。上記と内容が重複する意見なのですが、課題がたくさん残ってるような施策などについてのセミナーにて、様々な人の意見を集められるような企画をして頂き、それらの意見を反映させた取り組みを行っていくことでより良い社会づくりができると思いました。

※原文ママ

<Q 5>

●今後、大学より子育てに関する情報やイベントなどのお知らせメールをお送りしてもよろしいですか？

はい	8
いいえ	5

<Q 6>

●よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	0
小学校のご関係者	0
保育園のご関係者	0
現在子育て中の方	0
本学学生	12
本学教職員	1
その他	0

SDGs特設サイト

2021年度SDGs特設サイトについて

社会連携室

2021年度より「日本女子大学×SDGs」として、社会連携教育センターの事業計画に基づきSDGsに関する取組について情報発信を進めてきた。

具体的な取組として、本学におけるSDGsの取り組みについて、メインターゲットを受験生に想定した特設サイトを開設し、配信することを計画した。

各学科で取り組まれている研究について、SDGs推進の視点から情報を発信したいと考え、ホームページ制作には広告社株式会社に業務委託し、ホームページを開設した。

日本女子大学×SDGs特設サイト：<https://www3.jwu.ac.jp/sdgs/index.html>



【2021年度スケジュール】

- 2021年5月～ 学内募集
- 2021年9月～ 取材・撮影開始
- 2021年11月 第1弾公開（5コンテンツ）
- 2022年12月 第2弾公開（2コンテンツ）
- 2022年3月 第3弾公開（4コンテンツ）

【ホームページ公開】

第1弾公開（11/19）
「理想は「犬のおまわりさん」地域福祉を通じて社会の課題解決に貢献できる人を育てています。」 人間社会学部社会福祉学科 准教授 黒岩亮子
子どもを考えることは、未来の地球を考えること。 家政学部児童学科 専任講師 浅野由子
日本古典文学を知れば、一生楽しく自分たちのまちで生きられる。 文学部日本文学科 教授 福田安典
地図を見れば、社会課題の解決策が見えてくる。 人間社会学部教育学科 教授 田部俊充
コンビニの廃棄弁当でサステナブルな世界を！ 理学部化学生命科学科 教授 菅野靖史

第2弾公開（12/24）
「生活の視点」で、町工場の未来に新しい風を！！
家政学部家政経済学科 准教授 額田春華
エシカルの真髄は、エシカル商品を買うことのみならず！
家政学部被服学科 教授 細川幸一

第3弾公開（3/31）
センサーネットワークでつなげよう、社会課題解決のバトン。
理学部数物情報科学科 准教授 横田裕介
人を理解するために、データは欠かせない。
人間社会学部心理学科 准教授 麦谷綾子
アメリカは問題だらけの国。だからこそ面白い。
文学部英文学科 教授 藤永康政
ジェンダーの視点からこそ見える、「美術」に潜む欲望や願望。
人間社会学部文化学科 准教授 水野僚子

jsc@atlas.jwu.ac.jp

